シタル簀圍漁業ハ石川縣漁業取締規則第十五條第二項第一號ニ於テ一定ノ制限ヲ設ケ明カニ免許スヘキコトヲ規定セリ被告ハ此規定ニ違反シ免許ヲ與ヘサルモノナレハ原告カ營業免許ヲ受クヘキ權利ヲ傷害シタル違法處分ト云ハサルヲ得ス被告ハ漁業法施行規則第八條ニ依リ營業免許ヲ拒否シタリト云フモ該條ハ水產動植物ノ蕃殖ニ妨害アリタル爲メ一旦免許取消ト爲リタル漁業ハ後日再願スルモ免許セストノ意ニシテ本件ニ適用スヘキモノニアラス因テ被告ノ右免許願書ニ對スル指令ヲ取消シ該免許願ニ對シ免許スヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告陳述ノ要旨ハ原告ハ明治三十五年八月二十八日石川縣河北潟ニ於テ定量漁業ノ免許ノ出願シタルニ被告ハ明治三十六年一月十二日之ヲ拒否シタリ然ルニ原告ハ右處分ニ對シ同月十三日農商務大臣ヘ訴願ヲ爲シ同月十四日本訴ヲ提起シ同年四月二十日ニ至リ訴願ノ取下ヲ出願シタリト雖モ行政裁判法第十七條ニ依レハ原告ニ於テ農商務大臣ヘ訴願ヲ爲シタル以上ハ同一處分ニ對シ重ネテ行政訴訟ヲ爲スヲ得サルモノナレハ本訴ハ不適法ニ爲シタル無效ノ訴訟ナリ原告ハ訴願ノ取下ヲ爲シタルモ之レカ爲メ無效ナル訴訟カ有效ト爲ルノ理ナシ若シ原告ニ於テ有效ニ出訴ヲ爲サントセハ訴願ヲ取下タル上行政裁判法第二十二條ノ期間內ニ於テ僅カニ之ヲ爲シ得ルノ一途アルノミ然ルニ原告カ訴願取下ヲ爲シタルハ乙第三號證ノ如ク明治三十六年四月二十日ニシテ本件拒否ノ處分ヲ爲シタルヨリ九十有餘日ヲ經過スレハ原告ハ到底訴權ヲキモノナルヲ以テ本訴ハ棄却セラレタシ假リニ原告ニ訴權アリトスルモ被告カ本件免許否拒ノ處分ヲ爲シタルハ漁業法施行規則第八條ニ基キ水產物ノ蕃殖保護上ニ害アリト認メ免許ヲ與ヘサリシモノナリ抑モ原告ノ簀圍出

願場所ハ河北潟ニ注入スル淺野川、宮川、八間川及金腐川ノ川尻ニシテ該場所及其附近ハ同潟中灣入スル所ニシテ水深ク藻類繁茂シ泥質ニシテ餌料ニ富ムヲ以テ潟內ニ生息スル魚類殊ニ原告ノ漁獲セントスル鮒、鯉、鱚、鰻、鯰、鮠、鯽ハ常ニ同所ニ聚集シテ產卵シ及產卵シタル稚魚成長スルマテ同所ニ棲息ス是ヲ以テ同場所中最モ蕃殖上重要ナル淺野川尻ハ從來釣ハ勿論其他一切ノ禁漁場ト爲シ以テ魚族ヲ保護ス然ルニ原告ノ簀圍漁業出願場所ハ此ノ禁漁場トハ頗ル接近スル場所ニシテ前記魚類ノ蕃殖場所ニ屬スルヲ以テ原告ノ簀圍漁業ヲ免許スルトキハ該漁具ノ構造裝置ノ方法カ同所ニ於テ產卵スル前記魚類ノ親魚及蕃殖シツヽアル稚魚ノ大部分ヲ一時ニ漁獲スルニ適シ亦原告カ出願ノ目的カ茲ニ在ルヲ以テ其結果同潟ノ如キ小湖沼ニアリテハ忽チ水族ノ減耗ヲ來タスヘキハ必然トス如此場合ヲ生スル出願ニ對シテハ漁業法施行規則第八條ヲ適用シ免許ヲ與フヘキモノニアラサルハ同條ノ命スル所ニシテ又被告官廳ノ職責上當然ノ處置トス故ニ被告カ本件免許拒否ノ處分ヲ爲シタルハ正當ニ法律ヲ適用シタルモノニシテ毫モ原告ノ權利ヲ侵害シタルモノニアラス因テ原告ノ請求相立タストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

行政裁判法第十七條第三項ハ訴願ト行政訴訟トヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テ二者其一ヲ擇フヘシ二者ヲ合セテ之ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルニ過キス一旦訴願ヲ爲シタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ絕對ニ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ストノ規定ニアラス故ニ誤ツテ二者ヲ合セ之ヲ爲スモ其一ヲ取下クタル場合ノ如キハ初メヨリ之ヲ爲サヽルト同一視スヘキモノナルヲ以テ其取下

一ノ事件ニ對シ併行シタル訴願及ヒ訴訟ノ效力

ヲ爲サヽル訴願又ハ行政訴訟ニシテ法定ノ期間内ニ提起シタルモノナルニ於テハ之レカ成立ニ妨ケアルヘキノ理ナシ本件原告ハ一旦訴願及ヒ行政訴訟ヲ爲シタルモ其訴訟ハ既ニ取下ヲ爲シタルモノナレハ之ヲ爲サヽルト一般ナルヲ以テ原告ニ行政訴訟ヲ爲スノ權ナシトスル被告ノ妨訴抗辯ハ其當ヲ得ス

石川縣漁業取締規則第十五條第一號ハ單ニ簀圍漁業ニ關スル一般ノ制限ヲ規定シタルモノニシテ該制限ニ從フトキハ如何ナル場所ニ於テモ其漁業ヲ免許スヘシトノ義ニアラス而シテ漁業法施行規則第八條ニ依レハ水產物ノ蕃殖保護ニ害アリト認ムル漁業ハ免許セサルコトヲ得ルモノナリ本件原告ノ簀圍漁業ヲ出願セシ場所ハ河北潟ノ中鮒、鯉、鰻等ノ魚族蕃殖保護ノ爲メ禁漁場ト爲シタル場所ニ接近シ且原告ノ出願セシ簀圍漁業ハ右魚族ノ多數ヲ一時ニ漁獲スルヲ以テ目的トスルモノナレハ該魚族ノ蕃殖保護ニ害ナシト認メ難キヲ以テ被告カ原告ノ出願セシ漁業ハ水產物ノ蕃殖保護ニ害アリトシ其免許ヲ拒否シタルハ不法ナリト云フヲ得ス右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

被告ノ妨訴抗辯相立タス。此ノ裁判ニ關スル訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

原告ノ請求相立タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●渡船營業ニ關スル不當處分取消請求ノ訴

明治三十六年第百三十四號
明治三十六年六月五日第一部裁決（却下）

判決要旨

一、渡船營業許可年限中同一ノ場所ニ於テ他人ニ對シ架橋ヲ許可シタルヲ不當トスル事件ハ明治二十三年法律第百六號ノ三ニ所謂營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件ノ範圍ニ入ルヘキモノニアラス又他ノ法律勅令中斯ル行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ

原告　山口權五郎
東京府荏原郡羽田村大字羽田千九百十七番地平民農

被告　千家尊福
東京府知事男爵

右原告山口權五郎ヨリ被告東京府知事男爵千家尊福ニ係ル渡船營業ニ關スル不當處分取消請求ノ訴訟狀ニ就キ審査スルニ

原告訴求ノ要旨ハ原告ハ東京府荏原郡羽田村大字羽田ヨリ同村大字鈴木新田ニ至ル海老取川筋ニ於テ明治三十年十月五日ヨリ向フ五个年間乘合渡船營業ヲ出願シ許可ヲ得テ營業中明治三十三年三月藤田七右衛門外九名ハ同一ノ場所ニ於テ同營業ヲ爲シ原告ニ妨害ヲ加ヘント企テシヲ他人ノ調和ニ依リ原告ハ收益金ノ内四割ヲ分與シ藤田等ハ妨害ヲ爲サヽルコトヽ契約ヲ結ヒ其後明治三十五年八月同營業期限ヲ更ニ向フ五个年間延長アランコトヲ出願シ其許可ヲ得テ營業中ナリシニ

他人ノ營業免許取消ノ請求

右藤田七右衛門外九名ハ該契約ニ背キ尚餘人ヲ加ヘ前同一ノ場所ニ於テ架橋營業ヲ爲サンコトヲ出願セシニ被告ハ原告カ渡船營業ノ既得權アルコトヲ認知シ居ルニモ拘ラス本年三月十八日藤田等ノ出願ニ對シ許可ヲ與ヘタリ該許可ハ原告ノ營業ヲ全ク無效ニ歸セシメ即チ原告ノ渡船營業ヲ取消シタルト同一ノ結果ナルヲ以テ之カ取消シヲ求ムト云フニ在レトモ本件ハ他人ノ得タル營業免許ノ取消シヲ請求スルモノニシテ明治二十三年法律第百六號ノ三ニ規定セル營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件ノ範圍ニ入ルヘキモノニアラス又他ノ法律勅令中本件ノ如キ訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキ限ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ本訴ヲ却下ス

●不當指令取消請求ノ訴

明治三十四年第二百九十二號
明治三十六年四月二十二日第一部宣告（請求不立）

判決要旨

一、請山トハ特ニ所有權ヲ交付スルノ意義ニ於テ使用セラレタル語辭ト見ルヲ得ヘキ場合ノ外ハ其文字ノ示ス如ク所有權ノ自己ニ屬セサル山林ヲ請ケテ之ヲ收益スル權利ナリト謂ハサルヘカラス

原告　廣島縣沼隈郡松永町字東町三好貞四郎　訴訟代理人　丸岡東治　志田元陸　村田亀

被告　農商務大臣男爵平田東助　訴訟代理人　高木豐三

右當事者間ニ於ケル不當指令取消請求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ廣島縣神石郡油木村字權現山二等官林反別二十四町歩ハ原告ノ先代三好小傳次ノ願ニ依リ明和六年九月中津藩ヨリ永請山トシテ下附セラレ爾來該山ニ付年々銀十二匁ツヽノ正租ヲ納メ來リ且小傳次以來歷代ノ子孫樹木ノ植栽ヲ勉メタルニ依リ現時ノ如キ盛木ヲ見ルニ至リタルモノナルコトハ甲第一號證甲第二號證及甲第四號證ノ明文竝ニ現在立木ノ樹齡ヨリ推シテ明カナリ右甲第一號證ニ於テ「永請山ニ被下候云々」又「但宮付之分水帳表相除運上銀十二匁免定載ニテ可指出之」トアリ「被下」トハ附與スルノ意義ナルヲ以テ「永請山ニ被下候」云々トハ永代其所有權ヲ下附シタルモノト解セサルヘカラス被告ハ永請山ト爲ストハ之ヲ受クル者ヲシテ所有權ヲ有セシムルノ意ニアラスト謂フト雖地方凡例錄及算法地方大成中請山分一ノ說明ヲ見ルトキハ請山ハ百姓持山ナルコト疑ナキノミナラス係爭ノ地ト同一制度ノ行ハレタル大分縣舊中津藩領ニ於ケル請山請地ハ地租改正ノ際總テ民有トセラレタルコトハ甲第三號證ノ證明スル所ナルヲ以テ舊中津藩ニ於テ請山ト稱シタルモノハ民有ノ性質ヲ有シタルモノナルコトハ疑ヲ容レス又免定載トハ年々上納スヘキ租稅ヲ一定シテ租稅帳ニ記載シアルヲ謂フモノニシテ地方ニ關スル舊制度ニ於テ免ト稱スルハ常ニ正租ヲ指シタルモノナルカ故ニ該運上銀ハ係爭地ノ所有權ヲ得タル者ヲシ

テ納メシムル正租ナリト謂ハサルヘカラス被告ハ甲第二號證ニ於テ權現山請山運上カ高外ニ記載セラレタルヲ以テ正租ニアラスト謂フト雖舊制ニ於テハ不動產ニ關スル正租ニシテ高外ノモノ存セシコトハ爭フヘカラサルヲ以テ高外ニ記載セラレタルノ故ヲ以テ之ヲ正租ニアラスト謂フコトヲ得ス又被告ハ甲第四號證ヲ引用シ原告ノ先代ハ一旦永請山トシテ權現山ヲ占有シタルモ中途取上ケラレタルモノナルヘキコトハ引續納稅シタル事實ナキヲ以テ明カナリト謂フト雖原告ニ於テ既ニ甲第四號證ヲ以テ明治年度ニ至リ油木村ニ於テ請山稅金一圓五十九錢ヲ納メタルコトヲ證スル以上ハ被告ニ於テ請山中係爭地ノミ該請山稅金中ニ包含セサルコトヲ主張セントセハ其事實ヲ擧證セサルヘカラス然ルニ被告ハ何等ノ擧證ヲ爲サヽルヲ以テ其主張ハ之ヲ是認スルコトヲ得ス以上ノ理由ナルヲ以テ前記權現山官林ハ原告ノ所有タルヘキコト當然ナリ假ニ一歩ヲ讓リ永請山トシテ下附シタル場合ニ於テハ被告主張ノ如ク所有權ノ移轉ヲ生セストスルモ少クトモ原告先代カ永請山トシテ權現山ヲ占有收益シタル時ニ於テ植栽シタル立木ノ所有權ハ必ス原告ニ在ルモノト爲サヽルヘカラス然ルニ被告ハ該官林下戻ノ出願ニ對シ不許可ノ指令ヲ與ヘタルヲ以テ該指令ヲ取消シ廣島縣神石郡油木村字權現山二等官林反別二十四町歩立木有形ノ儘下戻スヘシトノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ甲第一號證ヲ以テ原告ノ先代カ權現山ノ下附ヲ得タルモノナリト謂フト雖甲第一號證ニハ「永請山ニ被下候云々」トアリ永請山ナルモノハ運上銀ヲ徵收シテ毛上收得ノ權利ヲ附與スルニ過キサルヲ以テ永請山トシテ下サレタルコトハ所有權ヲ附與セラレタルモノニ

アラス又原告ハ係爭地ニ付正租ヲ納メ來リタリト謂フト雖甲第二號證ハ明和七年ニ於テ三好小傳次カ權現山請山運上ヲ納メタルコトハ之ヲ見ルニ足ルモ右運上ハ雜稅ニシテ正租ニアラサリシコトハ其高外ニ記載セラレタルヲ以テモ明カナリ特ニ甲第四號證ニ依レハ明治八年ノ頃ニ於テハ權現山ニ付テハ請山運上ノ納付ナカリシモノナルヲ以テ原告ノ先代カ明和六年ニ於テ得タル永請山ナル權利ハ其後消滅シタルモノト推測セサルヘカラス故ニ被告カ原告ノ出願ヲ許可セサリシ指令ハ相當ニシテ取消スヘキモノニアラスト云フニ在リ。依テ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ハ第一甲第一號證ニハ永請山ニ被下候トアルヲ以テ所有權ノ下附ヲ受ケタルモノナリト謂フト雖請山トハ特ニ所有權ヲ交付スルノ意義ニ於テ使用セラレタル用語ト見ルヲ得ヘキモノアル場合ノ外ハ其文字ノ示ス如ク所有權ノ自己ニ屬セサル山林ヲ請ケテ之ヲ收益スルノ權利ナリト謂ハサルヘカラサルカ故ニ永請山ニ被下候」トハ此ノ如キ權利ノ附與ヲ受ケタルモノト解釋セサルヘカラス原告ハ地方凡例錄及算法地方大成ヲ引用シテ請山ハ人民ノ私有ナルコトヲ主張スト雖該兩書ハ請山分一ノ說明ヲ爲シタルモノニシテ請山ノ說明ヲ爲シタルモノニアラス又大分縣下毛郡ニ於ケル請山ハ地租改正ノ際總テ民有ニ編入セラレタルコト甲第三號證ノ如クナルヲ以テ均シク舊奧平藩領ニ係ル廣島縣神石郡油木村ニ於ケル請山モ民有ト爲スヘキハ當然ナリト謂フト雖同一種類ノ土地カ民有ニ編入セラレタルノ事實ハ直チニ以テ其土地ノ民有タルヘキコトヲ證セサルノミナラス甲第三號證ニ於テハ原告モ亦認メテ以テ官山タル性質アルモノト爲シタル仕立山ヲモ尙ホ民有ト爲シタルコトヲ記載スルカ故ニ之ヲ以テ請山ハ民有タルヘキコトヲ證スルモノト爲スニ足

ラス第二、原告ハ甲第一號證ニ「但宮付ノ分水帳表相除運上銀十二匁免定載ニテ可指出之」トアリ甲第三號證ニハ「一同十二匁權現山請山運上三好小傳次年々上納」トアルヲ以テ係爭地ニ付テハ正租ヲ納メタルモノナリト謂フト雖甲第一號證ノ但書ハ運上銀十二匁ハ定免ノ如ク定額ニテ上納スヘキコトヲ定メタルモノナルコトハ之ヲ認ムヘキモ運上銀ヲ以テ直チニ之ヲ定免ト爲シ正租トシテ上納シタルモノナルコトハ之ヲ認ムル能ハサルノミナラス甲第二號證ニ依レハ三好小傳次ノ上納シアル請山運上十二匁ハ大工役鍛冶役桶屋役木挽役等ノ如キ雜稅ト共ニ之ヲ高外ニ記載シタルヲ以テ見ルモ其正租ニアラサリシコトヲ知ルニ足ル第三、原告ハ假リニ權現山ノ所有權ハ官ニ在リトスルモ其立木ハ原告先代ノ植栽シタルモノナルコトハ樹齡ニ依リテ明カナルヲ以テ少ナクトモ立木ハ原告ニ下付セサルヘカラスト謂フト雖甲四號證ニ依レハ明治八年油木村戸長ヨリ舊小田縣ヘ進呈セル諸稅廢存區別取調書ニハ權現山請山運上ナルモノハ之ヲ記載セサリシコトヲ明記スルヲ以テ原告ノ先代ハ明治八年以前ニ於テ運上銀ノ上納ヲ爲サヽルニ至リタルモノト認メサルヲ得ス若シ原告ノ先代ニシテ明和六年以後地租改正ニ至ルマテ引續永請山トシテ權現山ヲ占有收益シタリシナラハ運上銀ノ上納モ亦之ヲ繼續シタルヘキ筈ナルニ其之レ無キヲ以テ見レハ原告先代ハ明治八年以前ニ於テ權現山ノ占有收益ヲ爲サヽルニ至リタルモノト謂ハサルヲ得ス果シテ然ラハ現存立木ノ樹齡ヨリシテ其明和六年以前ニ栽植セラレタルモノニアラサルコトヲ推想スルコトヲ得ルトスルモ以テ原告先代ノ栽植シタルモノナルコトヲ推測スルコトヲ得ス

依テ判決スル左ノ如シ。原告ノ請求相當タス。訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

◉所得金減額請求ノ訴

明治三十六年第五十八號
明治三十六年五月二十九日宣告

（請求相立）

判決要旨

一、所得稅法第四條ニ於テ總益金中ヨリ前年度ノ繰越金ヲ控除スルハ已ニ徵稅セシ金額ニ對シ再ヒ加稅セサルノ趣旨ニ基クモノナレハ一旦課稅セラレタル繰越積立金ハ是ヲ以テ當期ノ純益金ニ合算スルモ尙ホ此ノ部分ニ對シテハ課稅スルノ限ニアラス

（參照）所得ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ算定ス」一、第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金、前年度繰越金及保險費任準備金ヲ控除シタルモノニ依ル但シ第二條ニ該當スル法人ノ所得ハ此ノ法律施行地ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生スル各事業年度ノ益金ヨリ同年度損金ヲ控除シタルモノニ依ル（所得稅法第四條第一項第一號）

原告　株式會社廣島貯蓄銀行　廣島縣廣島市字中島新町八十六番地
取締役頭取
有代表者　海塚新八
廣島稅務監督局長
被告　岩崎奇一
訴訟代理人　廣島稅務監督局在勤事務官　矢野久三郎

繰越金ニ對スル所得稅法第四條ノ適用

右當事者間ノ所得金減額請求ノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告訴求ノ要旨ハ當事業年度總益金ハ別紙第一號證附屬營業報告書ニ掲載ノ如ク三萬九千七百六十九圓九十四錢四厘ノ内金一千八百十六圓六十六錢ハ前記純益金ノ當期ニ繰越シタル者ニシテ所得稅法第四條第一項ノ控除金額ニ該當シ五千三百七十三圓五十錢八厘ハ同條第二項ノ控除金額ニ該當スルヲ以テ之ト總損金三萬五百六十八圓八十三錢四厘ノ内公債社債ノ利子ニ對スル所得稅額四十五圓八厘ヲ減シタル金額三萬五百二十三圓八十二錢六厘計金三萬七千七百十三圓九十九錢四厘ヲ控除シ殘額二千五十五圓九十五錢ヲ所得金額ト爲スヘキモノナルニ被告ハ別紙第一號證ノ申告ニ對シ第二號證ノ通三千四百五十五圓九十五錢ノ不當ナル所得金額決定通知ヲ爲シ第三號證ノ請求ニ對シ第四號證ノ通猶三千四百五十五圓九十五錢ノ不當ナル所得審査決定通知ヲ爲セリ元來明治三十二年三月十日法律第十七號所得稅法第四條ニ據レハ第一種ノ所得ハ各事業年度總益金ヨリ同年度總損金前年度繰越金及保險責任準備積立金ヲ控除シタル者ニ依ルトアリテ所有物消却金九百圓ハ別紙第五號證ノ通明治三十四年上半期純益金中ヨリ三百圓第六號證ノ通同年下半期純益金中ヨリ六百圓ヲ積立テ有價證券ヲ消却セシ五百圓ハ別紙第七號證ノ通リ明治三十一年下半期純益金ノ中ヨリ積立テ置キタル者ニシテ共ニ前年度ノ繰越金ナリ故ニ此金額ハ舊稅法施行期間ニ係ルモノハ全ク納稅ノ義務ナキモノ新稅法施行後ニ係ルモノハ每事業年度ノ純益金トシテ既ニ納稅義務ヲ了ヘタルモノニシテ之ヲ當事業年度ノ所得ニ算入ス可ラサルハ前述明文ノ如シ依テ被告ニ於テ前年度繰越金一千四百圓（自明治三十五年一月至同年六月）ヲ通知金額三千四百五十五圓九十五錢ノ内ヨリ控除スヘシト

ノ判決ヲ乞フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ當事業年度ニ於テ利益金ニ組入レタル二種ノ積立金ハ既往年度ニ於テ積立タルモノニシテ均シク前年度繰越金ナルヲ以テ總益金ヨリ控除セラルヘキモノナリト云フト雖モ假令積立金タルモ既ニ利益勘定ニ移入セハ即チ其性質ヲ變シ當該事業年度ノ利益トナリタルモノナレハ利益トシテ算定スルコト當然ナリ而シテ稅法ノ所謂前期繰越トハ前期純益金ノ全部若クハ一部分ヲ後期ヘ繰越スモノヲ云フニアレハ積立金ト其性質同シカラス被告カ積立金ヲ以テ前期繰越金ト看做シ總益金ヨリ控除セサルハ適法ノ處置ナリ原告ハ本件積立金ハ積立ノ當時現行稅法施行以前ニシテ納稅義務ナカリシモノ又ハ已ニ課稅ヲ受ケタルモノナルカ故ニ更ニ課稅ヲ受クヘキモノニ非スト云フト雖モ法律ノ結果トシテ更ニ課稅ヲ受クヘキ場合ハ之ヲ避クルヲ得ス他ノ例ヲ以テ見ルモ當期ノ損失アルニ當リ事業年度決算前積立金ヲ以テ之ヲ補塡シタルトキハ其損失ハ決算ニ現ハレサルヲ以テ損失ハ損失トナラス即チ所得トシテ課稅セラルヘシ故ニ若シ原告カ本件損益計算書損失ノ部ニ掲記セル諸證券時價引直シノ損金三千五百六圓五十錢營業用建物減價九百圓ノ内ヲ決算前ニ於テ積立金千四百圓ヲ以テ償却シタリト假定セハ當期損益計算書利益ノ部ニ積立金ヲ見サルト共ニ損失ノ部ニモ亦相當ノ金額ヲ減少スヘシ斯ノ如ク相殺ノ結果其計算ハ極メテ單純ナルヘシ此ノ場合ニ於テ政府ハ償却已濟ノ損金ヲモ未償却ト見做シ總損金ニ加算スルカ如キ取扱ヲナスヘキニ非サルカ故ニ所得ハ被告決定ノ通正ニ金三千四百五十五圓九十五錢トナルヘシ以テ被告ノ處分違法ナラサルヲ證スルニ足ルヘキナリ以上ノ理由ニ依リ原告ノ請求ハ更ニ其理由

ナキモノナルヲ以テ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ本件裁判ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

按スルニ所得稅法第四條ニ於テ總益金ヨリ前年度繰越金ヲ控除スルハ既ニ徵稅セシ金額ニ對シ重ネテ之ヲ爲サヽルカ爲ナレハ既ニ課稅セラレタル益金ニシテ繰越サレタルモノハ其使途ヲ定ムルト否トニ拘ハラス總テ此繰越金ニ該當スルモノト謂ハサルヲ得ス從テ本件二種ノ積立金一千四百圓ハ原告ノ明治三十五年上半期總益金ヨリ控除セラルヘキモノトス

依テ判決スルコト左ノ如シ

被告ハ所有物償却積立金九百圓諸證券價格平準積立金五百圓ヲ通知額三千四百五十五圓九十五錢ノ內ヨリ控除スヘシ、訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

◉違法決定取消ノ訴（明治三十六年第二十二號 明治三十六年五月二十五日第一部宣告 請求相立）

判決要旨

一、府縣制第六條第九項ニ所謂請負ハ廣義ニシテ普通請負ト稱スルモノハ總テ之ニ包含スルモノト解釋セサルヘカラス

一、府縣ノ金庫事務取扱ハ舊來ノ慣習ニ依リ普通請負ト稱スルモノナレハ之ヲ引受ケタル銀行ノ取締役ハ府縣制第六條ノ

所謂「府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員」ニ該當ス

（參照）府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選擧權ヲ有セス（府縣制第六條第九項）

原告　愛知縣中島郡四家村大字井之口百六十七番戶平民農業　川口六彌

被告　愛知縣參事會　愛知縣知事　深野一三

訴訟代理人　高木豐三

右當事者間ニ於ケル違法決定取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十五年九月八日愛知縣會議員補缺選擧ニ際シ中島郡選擧區ニ於ケル選擧ノ結果訴外人森東一郎ナル者ハ總投票數四千六百二十四票ノ內千九百六十三票ノ最多數ノ得票ヲ以テ當選シタレトモ同人ハ株式會社尾三農工銀行ノ取締役ニシテ而シテ同銀行ハ愛知縣金庫ノ現金保管及出納取扱ノ請負業ヲ營ミ居リ府縣制第六條第九項ニ該當スルモノナレハ被選擧權ヲ有セサル者ト認メ前愛知縣知事野村政明ニ對シ異議申立ヲナシタルニ被告ハ甲第一號證ノ如ク森東一郎ノ縣會議員當選ハ無效ニ非スト決定シタリ是本訴ヲ提起スル次第ナリ而シテ其理由ハ明治三十五年三月十五日ヲ以テ前愛知縣知事沖守固ト株式會社尾三農工銀行頭取小栗富次郎トノ間ニ本縣金庫ノ現金保管及出納事務取扱ニ付キ締結セシ契約書ニ依レハ第一條株式會社尾三農工銀行ハ縣廳ニ於テ定メタル縣金庫ニ關スル規定ニ因リ本金庫支金庫ノ現金保管及出納ヲ各金庫ニ於テ取扱

○請負ノ意義○府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役

ヲ者トス第五條縣廳ハ縣金庫事務取扱ニ關スル一切ノ費用トシテ手當金ヲ株式會社尾三農工銀行ニ交附スルモノトス但其金額ハ毎年度縣廳ニ於テ之ヲ定ム前項ノ金額ハ毎年四月十月ノ兩度ニ半額宛ヲ交付ス但此契約ヲ解除シタル場合ニ於テ一箇年ニ滿タサル時ハ月割一箇月ニ滿タサル時ハ日割計算ヲ以テ其時之ヲ交付ストアリテ第二條三條四條ハ農工銀行義務履行方法第六條九條ハ監督方法第七條八條ハ損害賠償責任第十條ハ契約解除權ノ留保第十一條乃至十五條ハ擔保責任第十六條ハ契約履行期ヲ約定シ而シテ森東一郎ハ本件選擧施行ノ當時該農工銀行ノ取締役タリ仍テ右知事ト農工銀行トノ契約ヲ按スルニ其第一條五條ハ契約ノ實質ヲ確定シタルニ係ラス契約カ請負ナルカ雇傭ナルカ將又其他ノ契約ナルカ判然區別スルニ憑據トスヘキ語ヲ用ヒス既ニ該契約ニシテ判然區別スヘキ用語ヲ缺ク以上ハ契約全體ノ趣旨ヲ據合シ契約締結當時ノ當事者ノ意思ヲ推測シテ決ス可キモノニテ區々タル一小字句ヲ捕ヘ以テ契約全體ノ性質ヲ云爲スルカ如キハ契約解釋ノ原則ヲ誤ルモノナリ而シテ本件金庫契約第一條ヲ據合シテ玩味スレハ農工銀行ハ縣金庫ノ現金保管及出納事務ヲ引受クルモノナルヲ認ムルニ餘リアリ其第五條ニ至リ縣廳ハ之ニ對シ年々報酬ヲ與フルコトヲ約シ其他各約款ヲ據合シ來レハ此ニ當事者ノ一方タル農工銀行ハ保管出納事務ノ完成ヲ約シ縣廳ハ其結果ニ對シ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルモノニテ民法第六三二條ニ所謂請負ノ要件ヲ完備スルモノナリ契約書第五條ニ費用トシテ云々ノ語有リト雖是區々タル一小字句ニシテ元ヨリ契約全體ノ精神ヲ動スニ足ラス又報酬額ハ該契約ヲ以テ定メス年々縣廳ニ於テ之ヲ確定スルモ之ヲ以テ請負契約阻却ノ理由トスルヲ得ス其故ハ請負契約タルニハ單ニ他方カ報酬ヲ與

フルコトヲ約スレハ足リ報酬額確定方法ノ如何ハ元ヨリ當事者ノ任意ニシテ請負契約ノ要素ニ非サレハナリ又報酬額ヲ年月日ニ依リ定ムルト否トハ現行民法上ニ於テハ請負契約ヲ阻却スル理由トナラス尚此種ノ契約ノ請負ナルコトハ明治三十五年四月十四日北海道原告神宮司盛雄ノ被告北海道廳長官園田安賢事件ニ對スル行政裁判所ノ判決ニ於テ既ニ明認セラレ行政訴訟上疑ナキ所ナリ依之覩之株式會社尾三農工銀行ハ府縣制第六條第九項ニ所謂府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ニシテ其取締役タル森東一郎ハ被選資格ナキコト確然タリ然リ而シテ本件金庫契約ハ明治三十三年三月內務省令第七號ニ依リ締結シタルヲ以テ民法上ノ契約ニ非ストハ第一號證被告決定書理由ノ一ナリ而シテ被告ハ同省令ニ基キ締結シタル契約ハ何故ニ民法上ノ契約ニ非サルヤ其理由ヲ付セスシテ漫然斷定セリ若シ夫レ其理由ニシテ右內務省令ハ公法ナルヲ以テ公法ニ基因シテ締結シタル契約ハ私法上ノ契約ニ非スト云フニ有ランカ是大ナル誤謬ナリ凡ソ行爲ノ公法上ナルヤ私法上ナルヤ行爲ノ基因シタル法規ノ公私ヲ標準トシテ決ス可キモノニアラス行爲ニ法律上ノ效果ヲ附スル法規ノ公私ヲ標準トシテ決ス可キモノナリ若シ夫レ强ヒテ被告ノ標準ニ從ハンカ明治二十二年四月勅令第六十號會計規則ニ基キ締結シタル工事請負物品供給契約ハ亦私法上ノ契約ニ非スト論斷セサル可カラサルニ至ラン若シ又其理由ニシテ同省令第二十條以下ハ更ニ縣廳ト銀行トノ權力關係ヲ規定スルモノニシテ此權力關係ニ基因シタル契約ハ即チ私法上ノ契約タルヲ得スト云フニ有ランカ是レ皮想ノ見ナリ其故ハ同省令第二十條以下ハ恰モ權力關係ヲ規定スルカ如キ用語ヲ有スルモ其實何等契約締結ノ點ニ於テ銀行ノ意思ヲ檢束スルヲ見ス唯契約締結ヲ基礎トシテ銀行ノ意

請負ノ意義○府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員

思一二ヲ檢東スルヲ見ルノミ夫レ既ニ契約締結ノ點ニ於テ銀行ノ意思ヲ檢東スルモノニ非サランカ該契約ハ實ニ權力關係ニ基キ締結セラルヽニ非スシテ全ク平等關係ニ基キ締結セラレタルモノト云フヘシ從テ該契約モ亦私法上ノ契約タルハ當然ノ理ナリ本件金庫契約ハ請負契約ニ非スシテ雇傭契約ナリトハ決定書理由ノ二ナリ契約カ雇傭ナルヤ請負ナルヤハ契約カ勞務其モノヽ給付ヲ目的トスルヤ將又勞務ノ結果ノ給付ヲ目的トスルヤニ據リ決セラルヽ所ナレトモ本件金庫契約カ何レヲ目的トスルヤハ判然區別ノ憑據トナル可キ用語ヲ有セス故ニ契約全體ノ趣旨ヲ斟合シ以テ契約締結當時ノ當事者ノ意思ヲ推測シテ決ス可キハ既ニ前陳セシカ如シ論者或ハ言ハン本件金庫現金保管契約ハ寄託契約ナリト是契約カ保管行爲其モノヲ目的トスルヤニ據リ決ス可キモノニシテ契約履行其モノニ保管行爲ヲ要スルヲ見テ寄託契約ナリト論定スルハ恰モ雇傭契約ノ履行ニ法律行爲ヲ要スルモノ有ルヲ見テ委任契約ナリト論斷スルト其誤謬カ軌ヲ一ニスルモノナリ現金保管ハ契約ノ目的ニ非スシテ契約ノ結果ナリ契約ノ目的ト結果トヲ混同セハ雇傭請負委任寄託ハ遂ニ了解ス可カラサルナリ或ハ又言ハン本件金庫出納契約ハ行政ノ部類ニ屬スル出納行爲ヲ包含スルヲ以テ一概ニ私法上ノ契約ナリト云フヘカラスト夫レ然リ然ラハ其私法上ノ出納行爲ノ部分ニ付テハ猶私法上ノ契約ナリト云ハサルヘカラサルハ何人モ首肯セサルヲ得サルヘシ以上ノ次第ナレハ明治三十五年十二月三十日被告カ原告ニ與ヘタル決定ヲ取消シ森東一郎ノ愛知縣會議員當選ハ無效ナリト判決セラレタシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告主張ノ第一點ハ被告ハ本件金庫契約カ明治三十三年三月內務省令第七號ニ

依リ締結セラレタリト云フヲ以テ民法上ノ契約ニアラスト決定シタルモ何故ニ民法上ノ契約ニアラサルヤ其理由ヲ附セス若シ夫レ其理由ニシテ內務省令ハ公法ナルカ故ニ之ニ基因シテ締結シタル契約ハ私法上ノ契約ニアラスト云フニアランカ是誤謬ナリ凡ソ行爲ノ公法上ナルヤ私法上ナルヤハ行爲ノ基因シタル法規ノ公私ヲ標準トシテ決スヘキモノナリ若シ又其理由ニシテ同省令第二十條以下ハ縣廳ト銀行トノ間公私ヲ標準トシテ決スヘキモノニアラス行爲ニ法律上ノ效果ヲ附スル法規ノ權力關係ヲ規定スルモノニシテ此權力關係ニ基因シタル契約ハ即チ私法上ノ契約ニアラスト云フニアランカ是皮想ノ見ナリ其故ハ同省令第二十條以下ハ恰モ權力關係ヲ規定スルカ如キ用語ヲ有スルモ其實契約締結ノ點ニ於テ何等銀行ノ意志ヲ檢東スルヲ見ス唯契約締結ヲ基礎トシテ銀行ノ意志一二ヲ檢東スルヲ見ルノミ既ニ契約締結ノ點ニ於テ銀行ノ意志ヲ檢東スルモノニアラサランカ該契約ハ實ニ平等關係ニ基キ締結セラレタルモノナリト云フニアリ被告カ其決定ニ於テ本件金庫契約ヲ以テ直ニ民法上ノ契約ナリト云フヲ得ストナセルモノハ其法律行爲カ行政命令ノ規定ニ基因シ純然タル私法上ノ行爲ト其成立ヲ異ニスルカ故ニ單ニ契約ノ名アリト云フヲ以テ直ニ民法上ノ行爲ナリトナスヲ得スト云フニアリ抑モ縣金庫ナルモノハ縣ニ於テ保管出納スル所ノ現金ヲ取扱フ所ニシテ縣出納吏ト共ニ縣ノ財務機關ナリ明治三十三年三月內務省令第七號第二十條ニ於テ金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ府縣知事之ヲ定ムト規定シタルハ明治二十二年勅令第百二十六號金庫規則第六條ニ中央金庫本金庫ノ現金ノ保管出納ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムト規定シタルト其結果ハ同一ニシテ前者ハ府縣知事ニ其取扱銀行ヲ定ムルコトヲ一任シ後者ハ命

請負ノ意義○府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員

令ヲ以テ直ニ之ヲ定メタルノ差アルノミ而シテ日本銀行ハ政府ノ爲メニ或ル仕事ヲ請負ヒタルモノニアラスシテ金庫規則ニ依リ金庫ノ事務取扱ヲ命セラレタルモノナルコトハ何人モ疑ハサル所ナリ蓋シ公法上ノ區域ニ於ケル法律關係ハ總テ命令服從ノ不平等ナル權力關係ニノミ限定セラルヽモノニアラス公法上ノ區域ニ於テモ亦當事者ノ承諾ヲ條件トシテ權利義務ヲ發生消滅若クハ變更セシムル行爲アリ本件株式會社尾三農工銀行ト愛知縣トノ間ニ於ケル縣金庫事務取扱ニ關スル法律關係ハ即チ公法上ノ區域ニ於テ當事者ノ承諾ヲ以テ成立條件トスル一ノ行政行爲ナリト斷定シタルカ故ニ右ノ如ク決定シタルモノナリ又原告主張ノ第三點ハ本件株式會社尾三農工銀行ト愛知縣トノ間ニ於ケル縣金庫事務取扱ニ關スル法律關係ハ純然タル民法上ノ請負契約ナリト云フニ在リテ本件係爭ノ主眼トスル要點ハ即チ此ノ契約ノ性質ニ關スルモノトス而シテ原告カ主張スル所ハ本件金庫契約ハ請負ナルヤ將タ雇傭ナルヤ判然區別ノ憑據トナルヘキ用語ヲ有セス一ニ契約全體ノ趣旨ヲ據合シテ以テ契約締結當時ノ當事者ノ意思ヲ推定シ勞務ノ結果ノ給付ヲ目的トスルヤ將タ勞務其モノヽ給付ヲ目的トスルヤニ據リ決スヘキモノナリ今契約書ニ就テ按スルニ第一條ハ農工銀行ハ縣金庫ノ現金保管及出納事務ヲ引受クルモノナルヲ認ムルニ餘リアリ其第五條ニ至リ縣廳ハ之ニ對シテ年々報酬ヲ與フルコトヲ約シ其他各約款ヲ據合シ來レハ此ニ當事者ノ一方タル農工銀行ハ現金保管及ヒ出納事務ノ完成ヲ約シ縣廳ハ其結果ニ對シ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルモノニシテ民法第六百三十二條ニ所謂請負ノ要件ヲ完備スルモノナリ第五條ニ費用トシテ云云ノ語アリト雖モ是レ區々タル一小字句ニシテ元ヨリ契約全體ノ精神ヲ動カスニ足ラス又報酬額

ハ該契約ヲ以テ請負契約阻却ノ理由トスルヲ得ス又報酬額ハ年月日ヲ標準トシ定ムルモ報酬額確定ノ單位ヲ期間ニ依ルト否トハ現行民法上ニ於テハ請負契約ヲ阻却スル理由タラスト云フニアリ然レトモ株式會社尾三農工銀行ト愛知縣トノ間ニ於ケル契約書第一條ハ原告ノ云フカ如ク縣金庫事務ノ完成ヲ約シタルモノニアラス抑モ縣金庫ハ縣ノ財務機關ニシテ縣ノ現金ノ出納保管ハ其職務ニシテ又其權限ナリ尾三農工銀行ハ恰モ個人カ國家若クハ公共團體ノ機關タル官職公職ニ任セラレ勤務スルト同シク縣ノ爲メニ勤務スルモノニシテ原告ノ言ヲ借リテ說明スレハ勞務ノ結果ノ給付ヲ目的トスルニアラスシテ勞務其モノヽ給付ヲ目的トスルモノナリ國家若クハ公共團體カ官吏公吏ヲ任用スルハ官吏公吏ノ勞務ノ結果ノ給付ヲ目的トスルニアラスシテ官吏公吏ノ勞務其モノヽ給付ヲ目的トスルニアルヤ言ヲ俟タス愛知縣カ尾三農工銀行ヲシテ縣金庫事務ノ取扱ヲナサシムルハ即チ尾三農工銀行ノ勞務ノ給付ヲ目的トスルモノニシテ此點ニ於テ官吏公吏カ國家若クハ公共團體ニ於ケル關係ト毫モ異ナル所ナシ元來縣金庫ナルモノハ縣ト其存在ヲ共ニシ從テ縣金庫ノ事務即チ財務機關タルノ職務權限ハ永續的ニシテ決シテ民法上ノ請負契約ノ目的タル或仕事ノ如ク一定ノ時間ニ於テ完成スルモノニアラス從テ縣金庫事務ノ完成ヲ目的トシテ契約ヲ締結スルヲ得サルナリ若シ原告ノ主張スルカ如ク縣金庫事務ノ取扱ヲ以テ民法上ノ請負ナリト云ハヽ官吏公吏ノ國家若クハ公共團體ノ事務ヲ取扱フモ亦國家若クハ公共團體ニ對スル請負ト云ハサル可カラス或ハ數師醫師辯護士等ノ勞務ノ如キ亦請負ナリト云ハサルヲ得サルニ至ラン是等ノ點ヨリ觀ルモ原告ノ主張カ明カニ牽强附會ナルコトヲ認ムルニ足ルヘキナリ元來本件契約書第一條ハ單

請負ノ意義○府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員

ニ縣金庫事務ヲ取扱フ所ヲ定メタルモノナリ其趣旨ハ同第四條ニ參照スレハ一層明瞭ニシテ決シテ原告ノ云フカ如ク解釋スヘキニ非サルコトハ多言ヲ要セスシテ明カナリ而シテ原告カ契約書第五條ハ縣金庫事務完成ノ結果ニ對シ報酬ヲ與フルコトヲ約シタルモノナリト主張スルニ至リテハ曲解モ亦甚シト云ハサルヘカラス該條ハ明ニ縣金庫事務取扱ニ關スル一切ノ費用トシテ手當金ヲ交付スト規定セリ是恰モ國家若クハ公共團體カ官吏公吏ニ俸給若クハ手當ヲ支給スルト同シク愛知縣ハ尾三農工銀行ノ事務取扱即チ勞務其モノニ對シテ手當ヲ交付スルモノニシテ決シテ勞務ノ結果ニ對シテ報酬ヲ與フルモノニアラス加之其金額ハ毎年度縣廳ニ於テ之ヲ定ムト云ヒ該金額ハ毎年四月十月ノ兩度ニ於テ半額宛ヲ交付スト規定セル上ヨリ觀ルモ請負契約ニ於ケルカ如ク仕事ノ完成ヲ目的トシ其仕事ノ結果ニ對シテ報酬ヲ與フルコトヲ約スルモノニアラサルヤ言ヲ俟タス又手當ノ額ヲ定ムル單位ヲ期間ニ依ルカ如キ其性質カ全ク請負契約ニアラサルコトヲ見ルニ餘リアリト云フヘキナリ要スルニ本件金庫契約ハ前段ニ辯明シタルカ如ク名ハ契約ト云フト雖モ之ヲ以テ直ニ私法上ノ契約ナリト斷定スルコトヲ得ス假リニ私法上ノ契約ナリトスルモ尾三農工銀行ハ愛知縣ノ爲メニ縣金庫事務取扱ノ勞務ニ服スルコトヲ約シタルモノニシテ決シテ或ル仕事ノ完成即チ勞務ノ結果ヲ供給スルコトヲ約シタルニアラス又縣ヨリ交付スル手當ハ或ル仕事ノ完成即チ勞務ノ結果ニ對スル報酬ニアラスシテ勞務其モノニ對シ支給スルノ手當ナリ故ニ本件契約カ假ニ公法上ノ法律關係ニアラストスルモ決シテ原告ノ主張スル如キ民法上ノ請負契約ニアラス從テ該銀行ノ取締役タル森東一郎ノ有スル縣會議員被選擧權ニ毫モ關係ナキモノナリト云フニ在リ

依テ本件裁判ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

府縣制第六條第九項ニ所謂「請負」ハ廣義ニシテ普通請負ト稱スルモノハ總テ之ニ包含スルモノト解釋セサルヘカラス何トナレハ此規定ヲ設クルハ議事ノ公平ヲ保タンカ爲メ利害關係者ヲシテ之ニ參與セシメサルニ在レハナリ而シテ本件金庫事務取扱ノ如キハ舊來ノ慣習ニ依リ普通請負ト稱スルモノナレハ之ヲ引受ケタル尾三農工銀行ノ取締役森東一郎ノ如キハ即本項ニ所謂府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ該當スルモノト謂ハサルヲ得ス

右ノ理由ニ依リ判決スルコト左ノ如シ

被告カ明治三十五年十二月三十日ヲ以テ原告ニ與ヘタル決定並訴外人森東一郎ノ當選ヲ取消ス、

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

◉漁業權傷害取消ノ訴

明治三十五年第三百九號
明治三十六年五月二十七日第一部宣告（請求不立）

判決要旨

一已ニ許與セラレタル漁業免許ト雖モ行政廳ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ其免許ヲ取消シ又ハ漁業區域ヲ減縮スルコトヲ得

漁業免許ノ取消及區域ノ減縮

原告　香川縣三豐郡詫間村大字松崎三百二十四番戸平民漁業　吉田淑　外一名

訴訟代理人　近藤次郎　横田千之助　川口萬之助

被告　香川縣知事　小野田元熙

訴訟代理人　香川縣屬　宮地善三

右當事者間ニ於ケル漁業權傷害取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳辯ノ要旨ハ原告ハ從來香川縣三豐郡詫間村大字詫間字汐木川尻ヨリ同村大字松崎字水出迄ノ地先海面ニ於テ甲第二號證ノ如ク餙建干網ト稱スル漁業ヲ營ミ來リ現ニ甲第一號證ノ如ク免許鑑札ヲ有シ漁業ニ對シ納稅ノ義務ヲ負擔シアルモノナルニ被告ハ訴外人吉田利助外一名ノ出願ヲ容レ第二號證ノ如ク原告ノ漁業免許區域內ニ係ル海面反別五十三町四反一畝二十五歩ノ埋立ヲ許可シタルニ因リ其結果原告漁業ノ既得權ヲ侵害セラレ不法ノ處分ナルヲ以テ右處分ノ取消ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ノ漁業ハ乙第一號證ノ如ク出願シ許可ヲ得タルモノニシテ其許可ノ區域內ニ於テ季節間建干網ナル漁具ヲ使用シ捕魚ヲ爲ス一種ノ營業ナルヲ以テ原告ハ專用漁業權ヲ有スルモノニアラス故ニ海面埋立ノ結果漁業區域ニ異動ヲ來ス場合ハ其現存スル區域內ニ於テ營業スヘキモノナリ被告カ吉田利助外一名ニ免許セシ海面埋立ハ單ニ一私人ノ營利事業ナリシト云フモ右埋立ハ面積六十四町五反三畝九歩ニシテ工費豫算六萬五千二百五十圓餘ヲ要シ成工ノ上ハ幾十萬圓ノ價額ヲ有スル土地ヲ增殖シ則國土擴張ノ一端ニシテ殖產興業上最モ公益アル事業ナルノミナラス高瀨川改修計畫線ニ依據シ該埋立ヲ企畫セシメシモノニシテ即チ高瀨川一部ノ改修工事ニ及ス所ノ公益多大ナリ之ニ反シ原告ノ漁業ハ乙第一號證ノ二ノ如ク一个年ノ收獲高ハ金十五圓乃至三十圓ニシテ縣稅年額四十五錢乃至二圓餘ニ過キサル收利稅額共ニ些々タルモノナレハ埋立事業ト同日ノ論ニアラス故ニ被告ハ明治二十三年勅令第二百七十六號第十二條及同年內務省訓令第三十六號ノ規定ニ依リ利害ノ關係ヲ調査シ公益上最必要ナリト認メ埋立事業ヲ許可シタルハ毫モ違法ノ點ナキヲ以テ原告ノ請求ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スル左ノ如シ

本訴ハ第一海面埋立鹽田開墾事業ナルモノハ公益上必要ナルモノナルヤ否第二舊來漁業免許ハ公益上必要アル場合ニ於テハ行政廳ハ其免許ヲ取消又ハ免許區域ヲ縮少セシムルノ職權アルヤ否ヲ決スルニ在リ第一被告ニ於テ訴外人吉田利助外一名ニ許可シタル海面埋立鹽田開墾事業ハ原告ノ陳述ニ依ルモ反別五十三町四反歩餘ニシテ廣大ナル有益地ヲ得ヘキモノナレハ假令該事業ハ一二私人ノ營利ニ屬スルモノトスルモ殖產上必要ナル土地ヲ築造スルモノナルヲ以テ被告カ之ヲ公益上必要ト認メタルハ不當ニアラス第二舊來與ヘラレタル漁業免許ハ行政廳ニ於テ公益上必要アリト認ムル場合ニ在テハ其免許ヲ取消又ハ漁業區域ヲ減縮セシメ得ヘキモノナレハ被告ニ於テ吉田利助外一名ノ出願ニ係ル海面埋立鹽田開墾事業ヲ認メ公益上必要トシ許可シタル結果原告ノ漁業場ノ幾部分ヲ縮少セシメタルモ不法ノ處分ト謂フヲ得ス

依テ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

◉府會議員補缺選擧效力ニ關スル異議ノ決定ニ對スル訴

明治三十五年第三百四十六號
明治三十六年六月三日第一部宣告（請求不立）

百四十八

判決要旨

一、府會議員ノ補缺選擧ニ際シ投票中一定ノ樣式ヲ缺クモノ即チ投票用紙ニ區役所ノ印章ナキモノアルモ其投票ノ數カ投票人員ニ對シ不足アルコトナク又タ不正行爲アリシコトノ證左ナキ以上ハ之レヲ以テ投票ノ全數ヲ無效ナリト云フヲ得ス

原告　東京市下谷區下谷徒町一丁目六十五番地平民雜業　大澤常正　訴訟代理人　安藤兼吉

被告　東京府參事會　東京府知事男爵　千家尊福　訴訟代理人　東京府屬　鷲見金三郎

右當事者間ニ於ケル府會議員補缺選擧效力ニ關スル異議ノ決定ニ對スル訴訟審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治三十五年九月二十五日東京府會議員補缺選擧ヲ東京市下谷區役所ニ於テ開會セシニ投票所ニ選擧人ノ數ニ應スヘキ投票用紙ノ準備ナカリシ爲メ選擧人ハ正當ニ選擧ヲ爲スヲ得サリシ者アリ若シ一枚ニテモ其不足ナルトキハ選擧會ハ未タ成立セサルモノナレハ結果ニ對シ騷動ノ生スルヤ否ヲ問フノ必要ナキモノナリ又正當ノ投票用紙ト紙質寸法體裁ヲ同フシ唯印章ノ押捺ナキ故ヲ以テ無效ト爲リタル投票アリ是レ或ハ僞造ナルカ將タ本紙ヲ竊取セシモノナルカ或ハ管理者ト他人ト選擧前結託セシニ出ツルカ何レニモ不正ノ行爲タルヤ必然ナレハ選擧前配布ノ投票用紙ハ總テ信ヲ措キ難キニ至ルヘシ畢竟不正行爲ニ基ク選擧ハ適法ノ選擧會ナリト謂フヲ得ス府縣制第三十五條ノ但書ハ適法ニ選擧會カ成立シタル以後ノ手續ニ關スル規定ニシテ本件ノ如キ毫モ成立セサル選擧ニ適用スヘキモノニアラス若シ本件ノ場合モ東京府參事會決定ノ如ク選擧ノ結果ニ異動ナキヲ理由トシテ適法ナリトセハ人民ノ選擧權ハ不正行爲ノ爲メニ影響ヲ受クルニ至ルヘク要スルニ適法ノ手續ヲ履踐セス又不正行爲ニ基キタルモノナレハ本件選擧ハ適法ノ手續ヲ誤リタルニ付無效トストノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ明治三十五年九月二十五日東京市下谷區役所ニ於テ執行シタル東京府會議員補缺選擧ニ對シ原告ヨリ異議ノ申立アルニ依リ被告ハ之ヲ審査セシニ投票所ニ於テハ正當ニ投票ヲ爲サシメタルノミナラス無效投票中正當ノ投票用紙ト同一ニシテ印章ナキモノアルハ不正ノ行爲ニ基キタルモノナリトノ事實ヲ證スルモノナシ又原告ハ投票用紙カ選擧人ノ數ニ對シ一枚ニテモ不足スルトキハ其選擧會ハ未タ成立セサルモノナリ府縣制第三十五條ハ選擧會成立後ノ手續ニ關

スル規定ニシテ本件ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニアラサレハ本選擧ハ全然無效ナリト主張スルモ選擧會ノ成立ハ同制第二十五條ニ基キタルモノナレハ投票所ニ於ケル投票用紙ノ設備如何ハ選擧會成立ノ要件ニ關係ナシ既ニ選擧會成立シタル以上ハ印章ノ押捺ナキ爲メ無效トナリタル投票ハ假リニ原告ノ想像スル如ク不正行爲ニ基キタルモノトスルモ爲メニ選擧ノ結果ニ異動ヲ及ホサヽルヲ以テ本件選擧ハ取消スヘキモノニアラスト決定シタルモノナレハ原告ノ請求相立タスト判決アリタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閲シ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ニ於テ投票所ニ選擧人ノ數ニ應スヘキ投票用紙ノ準備ナカリシ爲メ選擧人ハ正當ニ選擧ヲ爲スヲ得サリシ者アリ若シ一枚ニテモ其不足アルトキハ選擧會ハ未タ成立セサルモノナリ府縣制第三十五條但書ハ本件ノ如キ毫モ成立セサル選擧ニ適用スヘキモノニアラス又無效ト爲リタル投票ハ正當ノ投票用紙ト紙質寸法體裁ヲ同フシ唯下谷區役所ノ印章ヲ缺クノミナリ斯ノ如キ投票アルハ不正ノ行爲ニ出タルモノナレハ總テノ投票ニ信ヲ措キ難ク畢竟不正行爲ニ基ク選擧ハ適法ノ選擧ナリト謂フヲ得スト云フト雖東京市ニ於ケル府縣會議員ノ選擧ハ府縣制第四條但書第二十五條ニ基キ施行セラルヽモノナレハ投票中一定ノ儀式ヲ缺クモノ即チ下谷區役所ノ印章ナキモノアルモ投票人員ニ對シ投票ノ數ニ不足アリシ事實ナク又果シテ不正行爲アリシ事實ノ證左ナキヲ以テ投票ニ該印章ノ押捺ナキハ當事者ノ疎虞ニ出ツルモノト認ムルヲ相當トス故ニ投票ノ全數ヲ不正ナリト爲スヘキモノニアラス隨テ選擧會ハ不成立ナリト謂フヲ得ス

◉水利ニ關スル違法訓令取消ノ訴（明治三十四年第二百九十四號　明治三十六年七月二日宣告　請求不立）

判決要旨

一、行政裁判ニ依リ取消サレタル命令ト同一ノ命令ヲ再ヒ發スルモ違法ニアラス

一、利害ノ關係アル者ハ行政訴訟ニ參加スルコトヲ得ヘシ

說明

行政裁判ノ效力ハ不服ヲ申立テラレタル行政處分ノ取消ヲ爲スニ止マリ將來ニ向テ行政廳ノ行政行爲ヲ羈束スルノ效力ナシ元來裁判ノ效力ハ係爭事件ニ限リ執行力ヲ有スルニ止マリ其ノ以外ニ於テ何等ノ效力ナキノミナラス行政裁判ノ性質ヲ以テ一種ノ行政監督ト云フ方今學者ノ定論ニ從テ觀察スルモ亦タ以上ノ論決ヲ生スルヲ見ルヘシ則チ取消ノ方法ヲ以テスル行政監督ノ效力ハ已ニ爲シタル行政處分ニ對シテノミ行ハレ未タ發生セサル處分ニ對シテハ何等ノ效ヲ有セサレハナリ加之國家ノ狀態ハ變遷極マリナク今日ノ不當處分ト雖トモ亦タ時ヲ異ニスルトキハ正當且ツ必要ノ場合ナシトセス是レ本判決ノ生スル所以ナリ

原告　大阪府中河内郡池島村　訴訟代理人　花井卓藏　高野金重

右代表者　同府同郡同村長　澤井善藏

被告　大阪府知事　高崎親章　訴訟代理人　堀口剛　村上薰

從參加人　大阪府中河内郡三野郷村　訴訟代理人　横田虎彦

右代表者　同府同郡同村長　私市嶋松

右當事者間ニ於ケル水利ニ關スル違法訓令取消ノ訴審理判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

原告陳述ノ要旨ハ本件係爭ノ井堰ハ原告村内ノ用水貯蓄ノ爲ニ古來ヨリ設置セラルヽ營造物ニシテ該井堰ノ水懸ハ原告村ノ田地凡ソ百町歩以上ノモノヲ灌漑スルノ用ニ供スルモノニシテ井堰ノ高サハ古來五尺五寸ヲ下ラサリシコト明白ナル事實ナルニ被告ハ甲第一號證ノ如ク明治三十四年十一月一日附ヲ以テ係爭井堰ノ現在構造ニ由ル堰板倹込ノ高サ約六尺張ハ水利上有害ナルヲ以テ公益ノ爲必要ト認定スルニ付明治三十四年府令第百八號第三十條ニ依リ係爭井堰ノ堰板倹込ノ高ヲ川底ヨリ三尺三寸以下ノ構造ニ變更スヘキ旨ノ訓令ヲ與ヘタリ然レトモ當裁判所カ明治三十四年七月四日附ヲ以テ當事者間ニ與ヘタル明治三十三年第百三十三號事件ハ本件ノ當事者及其目的

物モ同一ニシテ甲第二號證ノ如ク其判旨ハ被告ノ與ヘタル訓令中堰板ノ高ハ川底ヨリ三尺三寸トスヘシトノ命令ヲ取消スヘシトアリ然ルニ本件訓令ハ同一ノ井堰ヲ三尺三寸以下ト爲スヘシトアリテ被告ハ前確定判決ヲ無視シテ再ヒ同一ノ效果ヲ生スヘキ訓令ヲ發シテ之ヲ執行セントスルハ確定判決ヲ打破スル不法アルヲ以テ被告ノ爲シタル本件訓令ハ取消サルヘキモノナリ又被告ハ本件井堰ノ堰板倹込ノ高サヲ三尺三寸張以上トセハ三野郷村大字福萬寺字矢ノ耕地ヲ浸水スルヲ以テ公益ヲ害スルモノト認メ本件訓令ヲ與ヘタリト云フモ其高サヲ約六尺張トスルモ恩智川ニ沿フ矢ノ堤防ハ尚高キヲ以テ流水ノ之ヲ超溢スルノ憂ナク又當事者ヨリ提出シタル見取圖乙印ノ箇所ニハ堤防サク往古ヨリ此近傍ハ浸水シ來リシ所ナリ現ニ此箇所ニ於テ堰樋ヲ造リシ古杭ノ殘存シアルニ徵スレハ古來堰樋ノ設備シアリテ恩智川ノ逆流ヲ防キ來リシ形跡アルニ拘ハラス被告ハ從參加村ニ此設備ヲ命セスシテ矢ノニ對シ浸水ノ害アリトシ係爭井堰ヲ三尺三寸以下ニ爲スヘシト命スルモ如斯クセハ原告村ノ耕地ニ對シ灌漑ノ用ヲ爲サスシテ忽チ涸渴スルノ患アルニ被告ハ之ヲ顧ミスシテ獨リ矢ノ耕地ニ浸水ノ害アリト認メ公益ヲ害スルモノト爲シタルハ頗ル不法ナルヲ以テ該訓令ハ取消サルヘキモノナリト主張シ被告答辯ノ要旨ハ原告村ノ管理ニ屬スル本件係爭井堰ノ堰板倹込ノ高サハ約六尺ノ構造ニシテ其堰板ノ高サ三尺三寸張以上ト爲ストキハ忽チ恩智川ノ流水停滯シテ上流ニアル三野郷村大字福萬寺字矢ノト稱スル地域約三十町歩ノ耕地ニ逆流シテ浸水スルヲ免カレス矢ノニ屬スル堤防ハ古來極メテ低弱ナリ上流地ニ對スル水利關係上ノ慣行トシテ之ヲ增大ニ爲スヲ得ス今之ヲ原告村ノ堤防ニ比較スレハ實ニ低キヿト五尺九寸餘ナリト

取消サレタル命令ト同一ナル新訓令○行政訴訟ノ參加

而シテ矢ノノ位置タルヤ其東南ニ向テ漸次勾配アリテ其方面ヨリ流下スル惡水ノ矢ノヲ經過シテ恩智川ニ注下スルモノナレハ其恩智川ニ接續スル箇所ニ堤防等ヲ設クルニ於テハ矢ノ耕地ハ該惡水ヲ排除スル途ナク之カ爲包圍セラルヘヲ以テ止ムヲ得ス恩智川ニ放水セサルヘカラス故ニ係爭井堰ヲ三尺三寸以上ニ高張スルトキハ該惡水ノ停滯スルノミナラス恩智川逆流シテ矢ノ耕地ニ浸水スルノ害アルコト實ニ明カナリ被告カ原告ニ變更ヲ命シタル三尺三寸張ノ水位ハ字矢ノ耕地ニ比シ低下スルコト一寸九分ナルヲ以テ右三尺三寸張以下トセハ敢テ矢ノ耕地ニ浸水ノ害ナク矢ノヲ經過スル惡水モ好ク疏通シ得ヘク且ツ原告村ニ於テ係爭井堰ノ利用ニ依リ吸取スル樋管ハ甲乙二箇ニシテ孰レモ三尺三寸張水位ノ以下ナルヲ以テ灌漑水引用ニ於テ毫モ支障ナキヲ以テ原告ニ係爭井堰ノ構造ヲ三尺三寸ニ爲スヘシト訓令シタルハ實ニ至當ナリト信ス原告ハ被告カ訓令ハ明治三十三年第百三十三號事件ノ確定判決ヲ打破スル不法ノ命令ナリト主張スルモ本件訓令ハ右判決ヲ無視シタルニアラス該判決ノ趣旨ハ要スルニ當事者孰レノ主張モ其立證ナキヲ以テ採用セラレサリシモノニシテ本件訓令ハ大阪府令第百八號ニ基キ被告カ職權ヲ以テ公益ニ害アルモノト認メタルニ基因スルモノナレハ彼是其原因ヲ異ニスルヲ以テ原告ノ論旨ハ不當ナリ依テ原告ノ請求ヲ排斥セラレ度シト云フニアリ而シテ從參加人ノ陳述ハ要スルニ被告ノ答辯ト同一ナリ

依テ按スルニ第一原告ハ本縣訓令ハ當裁判所カ爲シタル明治三十三年第百三十三號事件ノ確定判決ヲ打破スル不法ノモノナリト主張スルモ該判決ノ趣旨ハ被告ハ原告ニ對シ係爭井堰ノ堰板ノ高サハ川底ヨリ三尺三寸ト爲スヘシトノ命令ハ古例ニ依リタルヤ否ノ立證ナク結局何等ノ根據ナキ

命令ナルヲ以テ之ヲ取消スヘシトノ趣旨ニシテ本件訓令ハ右判決ノ後發布シタル大阪府令第百八號第三十條ニ公益ニ必要ト認ムル云々トアル條項ニ依據シタルモノナレハ全ク其命令ヲ爲シタル根據ヲ異ニシ其府令ノ違法ナラサル以上ハ公益ヲ害スル場合ニ於テハ假令本件訓令ハ執行上先キハ命令ト同一ノ結果ヲ生スルモ前判決ヲ打破スル不法ノ訓令ナリト云フヲ得ス第二係爭井堰ノ上流ニアル字矢ノ耕地ハ東ニ向テ漸次僅少ノ勾配アリテ其東ヨリ西北ニ向テ同耕地ノ中央ヲ經過スル三箇ノ小流アリテ見取圖乙印ノ箇所ニ於テ恩智川ニ注下シ此流水ハ右乙印ノ所ニ於テ恩智川ニ排泄スルノ外他ニ途ナキコトハ實地ノ狀況ニ依リ明カナリ然シテ鑑定書ニ依レハ矢ノ耕地平面ノ高サハ係爭井堰ヲ三尺三寸張ト爲シタル水位ヨリ以上最モ高キハ六寸二分其水位ヨリ以下最モ低キハ二寸七分其他ハ概シテ水位ヨリ僅少ノ高サヲ有スルニ過ス左スレハ係爭井堰ノ堰板候込ノ高サヲ三尺三寸以上ノ構造ト爲スニ於テハ乙印ノ箇所ヨリ逆流惡水シ勢ヒ矢ノ耕地ノ過半ヲ浸水スルハ免カル可ラサルモノト認ム殊ニ前揭三箇ノ流水モ其逆流ノ爲メ恩智川ニ注下スルヲ得ス益惡水シテ浸水ノ度ヲ高ムルハ實地ノ狀況ニ依リ推知シ得ルモノトス假リニ乙印ノ箇所ニ於テ堤防若クハ堰樋ノ如キヲ設備シテ恩智川ノ逆流ヲ防止スルトセンカ右流水ハ排泄ノ途ヲ失ヒ惡水シテ矢ノ耕地ヲ浸水スルニ至ルヘシ又原告ハ恩智川ニ沿フタル矢ノ耕地ハ古來ヨリ浸水ノ地ナリト陳述スルモ其主張ヲ立證スルモノナク却テ乙第五號證ノ一及乙第七號證ニ依レハ恩智川堤防ニ近接スル土地ハ中位ノ地價ヲ有スルヨリ之ヲ視レハ該耕地ハ古來ヨリ浸水シ來リシモノト認メ難シ又原告ハ三尺三寸以下ノ構造ト爲ストキハ原告村百町歩ヲ灌漑スル能ハスト主張スルモ係

取消サレタル命令ト同一ナル新訓令○行政訴訟ノ參加

爭井堰ニ關スル原告村ノ耕地ハ河、秀ト稱スル二字ノ地域ノミナルコトハ原告モ自陳スル所ニシテ其二字ニ對スル係爭井堰ノ水懸リ田地ハ乙第四號證乙第六號證ノ如ク四十四町餘ニシテ之レニ對シテハ係爭井堰ノ上流ニアル甲乙兩箇ノ吸込樋ヨリ引用灌漑スルモノニシテ該二個ノ吸込樋ハ孰レモ三尺三寸張水位ノ以下ニアルコトハ鑑定書ニ依リ明カナレハ此吸込樋ヨリ恩智川ヲ引用シ得サルモノニアラス唯タ三尺三寸張以上ニ爲スト否ニ於テハ引用ノ水量ニ於テ其差ナキニアラサルモ原告ハ三尺三寸帳ノ水位ニテ其水量ヲ以テ果シテ右河、秀ノ四十四町歩ヲ灌漑スルニ足ラストノ立證ナケレハ三尺三寸張ト爲スモ河、秀ノ田地ニ對シ水量ノ不足ヲ來スモノト認メ難シトス以上説明ノ如クナレハ被告カ公益ニ害アリト認メ本件訓令ヲ爲シタルハ相當ニシテ違法ノモノト云フヲ得ス第三原告ハ從參加人ヨリ參加申請ヲ爲スト雖モ本件ノ如キ公法關係ニ屬スル事件ニ對シ之ヲ許可スヘキ規定ナキヲ以テ採用スヘキモノニアラスト主張スルモ行政裁判法第三十一條ニハ汎ク訴訟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ職權ヲ以テ參加ヲ爲サシメ又ハ申立ニ依リ參加スルコトヲ許可シ得ル旨ヲ規定セルヲ以テ苟モ利害ノ關係ヲ有スル以上ハ公法關係ニ屬スルト否トニ拘ハラス又從參加人ノ名稱ヲ以テスルト否トヲ問ハス其訴訟ニ參加スルコトヲ得ヘキモノトス而シテ本件訓令ヲ取消スト否トハ係爭井堰ノ堰板候込ノ構造ニ關係ヲ及ホシ隨テ從參加村ノ耕地ニ水利上利害ノ關係アルモノト認メサルヲ得ス故ニ原告ノ主張ハ其理由ナキモノトス以上ノ理由ナルニ依リ主文ノ如ク判決ス

◉不當課稅取消ノ訴（明治三十六年第十五號 明治三十六年七月一日宣告）（請求不立）

判決要旨

一、町村制第九十七條ハ寺院ノ用ニ供セラル土地營造物及家屋ハ町村稅ヲ免除スルノ規定ニシテ寺院ノ所有タル土地其他ニ對シ免稅スヘキ規定ニアラス

一、明治十四年內務省乙第三十三號達ハ寺院ニ收納スル財產中其寺院ニ屬スヘキモノト住職ニ付スヘキモノトノ豫約ヲ定メ區別ヲ判然ナラシムルノ意ニ外ナラス

（參照）各管內社寺總代人之儀氏子檀家中氏子檀家ナキ相應ノ財產ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戶長役場ヘ屆出サセ今後該社寺ノ願屆等ハ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財產ハ田畑山林ノ所得ハ勿論賽物祈禱葬其社寺有ニ屬スヘキモノト共同官住職ニ付スルモノトノ豫約每社寺適宜相定平素混亂セサル樣取調方可爲致此旨相達候事但神宮官國幣社ハ非此限（明治十四年內務省達乙第三十三號第一項）

原告 新潟縣佐渡郡畑野村大字宮浦 靈宮寺住職 渡邊最明 外十四名

訴訟代理人 高橋庄之助 字都宮政市

被告 新潟縣參事會 新潟縣知事 阿部浩

訴訟代理人 新潟縣屬 田宮從義

町村制第九十七條ノ解釋○明治十四年內務省乙第三十三號達ノ趣意

右當事者間ニ於ケル不當課稅取消ノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ原告等住職ハ特有ノ財產ナク又一戶ヲ構ヘ生計ヲ營ム者ニアラス寺院ノ財產ヨリ生スル收入ハ之カ維持費ニ充ツヘキモノニシテ其ノ取締ニ關シテハ明治十四年內務省乙第三十三號ノ達アリ又町村制第九十七ノ規定アリ然ルニ畑野村々長中村由藏ハ寺院ノ財產即チ土地ヨリ生スル所得ヲ原告等住職ノ所得ト見做シ賦課額ヲ查定セリ是重大ノ錯誤ナリ且村會ノ議決書ヲ無視シ專斷ヲ以テ原告等生計ノ狀態ヲ認定シ該地價ヲ標準トシテ等級ヲ定メ明治三十五年度ノ縣稅戶數割第一期第二期及追加共賦課令狀ヲ發シテ徵收セシニ依リ原告ハ一旦之ヲ納付シタリ然レトモ村長ノ該措置ハ違法ナリ又議事錄ハ後日ノ係製ニ係ルモノト信シ被告ニ對シ異議ノ申立ヲ爲シ其取消ヲ求メシニ被告ハ取消スヘキモノニアラストシテ之ヲ却下シタレトモ不服ナリト甲第一號乃至第七號證ヲ提出シ畑野村長カ原告等ニ對シ發シタル縣稅戶數割ノ賦課令狀ヲ取消シ既ニ納付セシ金額ヲ返付スヘシト裁判アリタシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告等ニ對スル明治三十五年度縣稅戶數割賦課等級查定ノ寺院所有地價ニ依ラサルモノナルハ他ノ地價ヲ標準トセシモノハ歩合ト原告等カ賦課セラレタル歩合ト多少ノ差違アルヲ以テ推知シ得ラルヽノミナラス村會議事錄ニ依ルモ明カナリ又原告等生計ノ狀態ヲ認定シタルハ村長ニアラスシテ村會ナリシコトモ村會議事錄ニ徵シテ爭フヘカラサル事實ナリ又原告等ハ寺院ノ機關タルト共ニ一方ニハ自然ノ一個人トシテ人格ヲ有スル者ナルヲ以テ財產ヲ所有シ或ハ處分スル權能ヲ有スルコト明カナリ隨テ自己ノ經濟ニ由ル寵ヲ以テ立生計ヲ營ム者ナル事實アル

ニ據リ畑野村長カ原告等ニ對シ縣稅戶數割ノ賦課ヲ爲シ之ヲ徵シタルハ違法ナラサルヲ以テ原告ノ請求相立タスト判決アリタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閱シ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

原告ハ寺院ノ財產取締ニ關シテハ明治十四年內務省乙第三十三號ノ達アリ町村制第九十七條ノ規定アリ原告等ハ寺院ノ住職ニシテ特有ノ財產ナク一戶ヲ構ヘ生計ヲ爲ス者ニアラサルヲ村長ニ於テ寺院ニ所得ヲ以テ原告等住職ノ所得ト見做シタルハ錯誤ナリ又村會ノ議決ヲ無視シ自己ノ專斷ヲ以テ原告等生計ノ狀態ヲ認定シ且寺院所有ノ地價ヲ標準トシテ戶數割賦課ノ等級ヲ定メ徵稅セシハ違法ナル趣ヲ主張スト雖町村制第九十七條ハ寺院ノ用ニ供スル土地營造物及家屋ハ町村稅ヲ免除スルノ規定ニシテ寺院ノ所有タル土地其他ニ對シ免稅スヘキ規定ニアラス明治十四年內務省乙第三十三號達ハ財產ノ寺院ニ屬スヘキモノト住職ニ付スヘキモノトノ豫約ヲ相定メ區別ヲ判然ナラシムルノ意ニ外ナラス而シテ原告等ハ戶籍上住所ヲ定メ寺院ノ財產ヲ管理スル者ナレハ寺院ノ收入ヲ住職ニ付スルコトヲ要セサル豫約アルノ證左ナキ限リハ一戶ヲ構ヘサル者或ハ特有ノ財產ナキ者ナリトハ認メ難シ又戶數割賦課ノ等級標準ハ村長ノ專斷ヲ以テ定メタルコト及明治三十五年四月四日ノ畑野村々會議事錄ハ後日ノ作成ニ係ルモノナリトノ證左ナキヲ以テ採用スルニ足ラス而シテ被告提出ノ畑野村會議事錄ニ依レハ村會ニ於テ縣稅戶數割賦課等級規定第一條第二項ニ依リ賦課スヘキ者五十六名ノ戶數割課稅等級標準ヲ議定シ其人名中原告等十五名モ列記シアリテ該處分カ村長ノ專斷ニ出シモノナルコト又地價ヲ標準ト爲シタルモノナルコトハ認ムルニ由ナ

町村制第九十七條ノ解釋〇明治十四年內務省乙第三十三號達ノ趣意

キモノトス依テ明治三十五年十二月九日原告ニ對シ被告ノ與ヘタル裁決及畑野村長カ原告ニ對シ發シタル明治三十五年度縣稅戶數割第一期第二期並ニ追加ノ賦課令狀ハ違法ナキヲ以テ取消スヘキモノニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

●所得金額決定取消ノ訴（明治三十五年第二百十八號　明治三十六年七月十日第一部宣告）（一部請求相立）

判決要旨

一、所得稅法ニ所謂總損金トハ現ニ支拂ヲ爲シ又ハ動產不動產ノ價格ノ減損セシモノヲ謂フ故ニ將來ヲ假定シ費目ヲ設クルカ如キハ豫備ノ方法タルニ過キスシテ之ニ充當スル金額ハ損金ト看做スヘキモノニアラス

一、會社ノ財產ハ商法第二十六條ノ規定ニ從ヒ毎年財產目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ附スルコトヲ要スルモノナルモ船舶ハ其時價ヲ知ルコト容易ナラサレハ船舶ノ價格ヲ船齡ニ割

當テ損失ヲ算定スルハ不當ナリト謂フヘカラス

原告　東京市日本橋區北新堀町十八番地　東洋汽船株式會社
法定代理人　右會社社長取締役　浅野總一郎
訴訟代理人　岸清一　伊藤和三郎

被告　東京稅務監督局長　濱口雄幸
訴訟代理人　東京稅務監督局在勤稅務監督局事務官　久世廉夫

右當事者間ニ於タル所得金額決定取消ノ訴訟審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ明治三十五年四月十一日附ヲ以テ明治三十四年原告會社事業年度ノ下半期ニ於ケル所得金額ヲ甲第一號證損益計算書ノ通屆出テ被告ヨリ增額ノ通知アリシニ由リ再審査ヲ求メタルニ尙同額ニ決定ノ通知アリタレトモ該決定ハ益金ニ船價償却費、船舶大修繕費及手當金ナル三項ノ損金合計十七萬四千三百七十六圓五十七錢五厘ヲ加ヘタルモノヽ如ク船價償却費ハ事業年度內ニ蒙リタル純粹ノ損失即原告ノ資本タル船舶ノ磨滅減少ヲ補塡シ次年度ノ業務ヲ差支ナク營ムヘキ資本ナレハ純然タル營業費ニ屬シ普通會社ノ準備積立金トハ大ニ性質ヲ異ニスルモノナリ現ニ其金額算定モ收入又ハ純益ヲ標準トセスシテ船價其物ヲ標準トスルニ依ルモ之ヲ所得金額中ニ編入スルノ不當ナルコト論ヲ俟タサルナリ船舶大修繕費ハ船舶ニ對シ施シタル一定ノ金額ヲ超過スル特殊ノ修繕費ニシテ計算上及營業上ノ便利ニ供スル爲メ特ニ之ヲ普通ノ修繕費ト區別シタルモノニシテ現ニ其大部分ハ既ニ消費シ去リタルモノナレハ損金ナルコト普通修繕費ニ異ナル所

ナキニ單ニ其名ノ異ナルカ爲メ之レニ課稅スルハ其理由ヲ知ルニ苦マサルヲ得ス又該費算定ノ標準ヲ船價ニ取ルノ點ニ於テ船價償却費ト同一ナリ手當金モ亦所謂役員賞與金トハ性質ヲ異ニシ原告ハ使用人ニ對シ當然支拂フヘキ義務ヲ負擔シ居リテ名稱異ナルモ其實俸給ナレハ他ノ損失金ト異ナル所ナシ以上三項ノ金額ハ所得稅法第四條第一號ノ規定ニ依リ明治三十四年度下半期總益金ヨリ控除セラルヘキ總損金ノ一部ヲ爲スモノナレハ決シテ課稅ノ標準タル利得中ニ編入スヘキモノナラサルニ之ヲ編入シ所得金額ノ決定ヲ爲シタルハ不服ナルヲ以テ該決定ヲ取消シ同期ノ所得金額ヲ三十二萬六千三十一圓七十五錢八厘ト決定スヘシト判決アリタシト交フニ在テ甲第一號證乃至第四號證ヲ提出セリ

被告答辯ノ要旨ハ原告所得金額ヲ被告カ金五十萬四百八圓三十三錢三厘ト決定シタルハ原告會社ノ損益計算書ニ掲上シタル船價償却費船舶大修繕費手當金ノ三項ハ純然タル利益金ノ處分ナリ如何トナレハ右手當金ハ一定ノ計算期ニ於テ利益ヨリ歩合ヲ以テ給與スルモノナレハ名稱ノ如何ニ關セス其性質ハ賞與ニ同シ而シテ船價償却費及船舶大修繕費モ亦船價ヲ標準トシ利益ヨリ歩合ヲ以テ積立テ次年度以後ニ於テ必要ノ場合ニ支出スルモノナレハ一ノ積立金ニシテ稅法第四條ノ所謂其事業年度中ニ支出シタル損金ニアラサルヲ以テ之ヲ所得ニ加算決定シタルハ正當ニシテ毫モ違法ニアラサルヲ以テ原告ノ請求相立タスト裁判アリタシト云フニ在リ

依テ證據ヲ閲シ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

本件ノ所爭ハ原告カ明治三十四年事業年度下半期計算書上記載シタル船價償却費船舶大修繕費及

手當金ナル三費目ノ金額ハ所得稅法第四條第二號中ノ事業年度ノ總損金ト稱スルコトヲ得ルヤ否ニ在リ而シテ同法ノ所謂總損金トハ現ニ支拂ヲ爲シ又ハ動產不動產ノ價格ノ減損セシモノヲ謂フモノナリ故ニ將來ヲ假定シテ費目ヲ設クル如キハ豫備ノ方法タルニ過キス隨テ之ニ充當スル金額ハ損金ト看做スヘキモノニ非ス然ルニ原告ノ所得金額ニ添付セル明治三十四年事業年度下半期損益計算書支出列記中ノ手當金ハ俸給又ハ給料ノ如キ會社損益ノ有無ニ拘ラス會社ノ義務トシテ支給スヘキモノト認ムヘキ證左ナキニ由リ却テ會社ニ利益金アル場合ニ限リ給與スヘキモノト認ムヘキモノナレハ利益金ノ處分タルニ外ナラサルヲ以テ損金ナリト謂フヲ得ス又船舶ノ修繕ナルモノハ其損傷ノ大小ヲ豫定シ難キモノナレハ凡テ修繕ヲ要スル時期ニ臨ミ始メテ支出金額ノ決定スルヲ當然トス故ニ縱令損傷ノ大小ヲ區別シ大修繕費トシテ之カ金額ヲ表示スルコトアルモ損傷未發ノ場合ニ於テハ豫備金タルニ外ナラサルニ因リ原告ハ船舶大修繕ノ費目ニ充當スル金額ヲ以テ損金ナリト謂フヲ得ス又船價償却費ハ船舶ノ製造アリショリ使用ノ年序ヲ經ルニ從ヒ品質ニ減損ヲ生スルハ自然ノ結果ナリ而シテ會社ノ財產ハ商法第二十六條ノ規定ニ從ヒ毎年財產目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ附スルコトヲ要ス然ルニ船舶ハ其時價ヲ知ルコト難キモノナレハ原告カ船舶價格ヲ船齡ニ割當テ損失ヲ算定スルハ不當ナリト謂フヘカラス隨テ被告ニ於テ船齡ノ長短ニ付當否ヲ定ムルハ格別船價償却費ヲ利益金ノ處分ト爲シ損金ト認メストセシハ不當ナルニ依リ原告ノ所得金決定額ヨリ控除スヘキモノトス

以上ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

明治三十四年下半期ノ計算書中手當金及船舶大修繕費ノ金額ヲ所得金額ヨリ除去セントスル原告ノ請求ハ相立タス

被告ニ於テ原告提出ノ右計算書中船價償却費ノ金額ヲ益金ニ計算シタル處分ハ之ヲ取消ス被告ハ該金ニ付更キニ相當ノ處分ヲ爲スヘシ訴訟費用ハ原被告雙方ノ負擔トス

◉恩給請求權不當裁決取消請求ノ訴

明治三十五年第二百八十九號
明治三十六年七月十日第二部宣告（請求不立）

判決要旨

一、軍人恩給法第十七條第一ノ三ニハ「定期ノ給助ヲ受クル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ士官以上云々」トアリテ准士官ニ關シ何等文意ノ見ルヘキモノナケレハ該法文中ニ准士官ヲ含蓄スルモノト解釋スルヲ得ス

原告　北海道上川郡當麻村一番地平民　陸軍歩兵特務曹長　高野元次郎　訴訟代理人　齋藤亨　小林豐太郎

被告　內閣恩給局長　木喜德郎　訴訟代理人　內閣恩給局審査官　田口乾三

右當事者間ニ於ケル恩給請求權不當裁決取消請求ノ訴審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

理由

本件訴求ノ要旨ハ原告ハ附屬履歴書ニ表示セル如ク明治十八年二月教導團ヘ入隊同十九年六月卒業近衛歩兵第二聯隊附申付ケラレ同二十二年屯田歩兵隊ニ轉任爾來同二十六年五月マテ勤續同年五月十五日屯田兵條例ニ依リ屯田歩兵ヘ編入定規ノ給助ヲ受クル下士トナリ當時定規給助期限ハ三ヶ年ニシテ二十九年五月マテナルニ不拘同二十八年三月四日充員下令ト同時ニ定規ノ給助ヲ停止セラレ同日臨時第七師團ヘ編入同年五月陸軍歩兵特務曹長ニ任セラレ同年六月歸隊爾來明治三十二年十二月一日年齡滿限ニ依リ現役ヲ離ルヽマテ勤續シタルモノナリ左レハ原告カ現役ニ服シタルコト十四年九ヶ月ニシテ其間除算スヘキ年月數ヲ控除シ前後通シテ十一年九ヶ月ハ軍人恩給法ノ服役年ニ屬シ之ニ從軍年一ヶ年ヲ加算シ十二年七ヶ月ノ現役ニ服シタルモノニシテ而シテ原告退職當時ノ官階ハ准士官ナルヲ以テ軍人恩給法第四條第六條及第十七條ニ依リ相當ノ恩給ヲ受クヘキ權利アルモノナリ然ルニ被告カ軍人恩給法第十七條第一ノ三ニハ准士官ヲ含蓄セサルモノトシ其恩給權ヲ否認スルノ裁決ヲ與ヘタルハ不當ナルヲ以テ之レカ取消ヲ求ムト云フニ在リ按スルニ原告カ北海道ニ於テ定期ノ給助ヲ受ケタル事實ハ原告ノ認ムル所ニシテ而シテ軍人恩給法第十七條第一ノ三ニハ「定期ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ士官以上云々」トアリテ准士官ニ關シ何等文意ノ見ルヘキモノナケレハ該法文中ニ准士官ヲ含蓄スルモノト解釋スルヲ得ス又軍人恩給法制定ノ當時北海道屯田兵ニ准士官ノ設ケナカリシコトハ原告ノ明言スル所ニシテ而シテ恩給法第十七條退職服給ニ係ル服役年ノ始期ヲ規定セル各號並ニ他ノ各條ニ照徵スレハ恩

給法第四條ハ原告ノ如キ定期ノ給助ヲ受タル下士ヨリ出身ノ准士官ニ對シ適用スヘキ法意ニアラスト解釋スルヲ相當トス以上ノ如ク已ニ主要ノ點ニ對シ原告主張ノ理由ナキコトヲ說明シタル上ハ他ノ枝葉ノ論旨ニ付キ說明スルノ必要ナシ要スルニ被告カ原告ノ恩給權ヲ否認スルノ裁決ヲ與ヘタルハ相當ニシテ不當ナリト云フヲ得ス依テ主文ノ如ク判決ス

●不當裁決取消ノ訴

明治三十五年第二百九十七號
明治三十六年七月三日第一部宣告

（請求不立）

判決要旨

一、村會議員ニシテ公吏侮辱被告事件ノ爲メ輕罪公判ニ付セラレタルトキハ當然其職ヲ失フモノトス

原告 宮城縣玉造郡温泉村二十番地 遊佐庄吉

被告 宮城縣參事會 宮城縣知事 田邊輝實

訴訟代理人 宮城縣參事官 尾崎勇次郎

右當事者間ニ於タル不當判決取消ノ訴審理ヲ遂クル處原告主張ノ要旨ハ原告ハ村會議員ナリシニ明治三十四年十一月二十日無根ノ被告事件ニ依リ古川區裁判所ノ公判ニ付セラレ無罪ノ宣告ヲ受ケタリ然ルニ郡參事會及ヒ被告參事會ハ右被告事件ヲ以テ直ニ原告ニ對シ村會議員失職者ナリトシタレトモ右被告事件ハ刑法上公權停止ヲ附加セラル

ヘキ事件ニアラス故ニ町村制第九條二項ノ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪云々ニ該當セサルモノト信スルヲ以テ被告及郡參事會カ裁決ヲ取消ストノ裁判ヲ請フト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ノ公判ニ付セラレタル被告事件ノ罪質タル明治二十三年法律第百號ニ該當シ刑法第百四十條同第三十三條ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ即公權ヲ停止セラルヘキ輕罪事件ニ該當シ町村制第九條第二項ニ依リ公民權ヲ停止セラレ同時ニ村會議員タル資格ナキコトハ同制第十二條第十五條ノ明文ニ照シ明瞭ナルヲ以テ原告ノ申立相立タスト判決ヲ請フト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スル左ノ如シ

原告ハ輕罪公判ニ付セラレタルハ刑法上公權停止ヲ附加セラルヘキ事件ニアラスト云フト雖モ被告提出ノ判決謄本ニ依レハ原告ハ公吏侮辱被告事件ニ付古川區裁判所ニ於テ公判ニ付セラレタルモノニシテ其罪質ハ明治二十三年法律第百號ニ該當シ刑法第百四十一條同第三十三條ノ適用ヲ受クヘキモノナレハ原告ハ公權停止ヲ受クヘカラサル事件ノ爲メナリト謂フヲ得ス然レハ原告ハ町村制第九條二項中ニ所謂公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルモノニ該當シ同制第十二條一項但書及同第十五條一項ニ依リ被選擧權ヲ有セサルニ依リ從テ村會議員タルヲ得サルモノトス

依テ判決スル左ノ如シ

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

◉違法課税取消請求ノ訴

明治三十六年第六十七號
明治三十六年六月二十二日第一部宣告（請求不立）

判決要旨

一屠獸營業者ノ獸肉販賣業ニ對シ國税トシテ營業税ヲ賦課シ又其獸畜ヲ屠殺スル行爲ニ對シ縣税トシテ屠畜税ヲ賦課スルモ彼此其課税ノ目的ヲ異ニスルモノナレハ營業税法第三十六條ニ牴觸スルコトナシ

（參照）府縣ハ此ノ税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得此ノ附加税ノ外府縣税又ハ地方税ヲ賦スルコトヲ得ス（營業税法第三十六條）

原告　佐賀縣杵島郡武雄町九千三百二十七番地平民屠獸營業　藤木[illegible]

被告　佐賀縣參事會　佐賀縣知事　川[illegible]

訴訟代理人　佐賀縣士族　地[illegible]由廉郷

右當事者間ノ違法課税取消請求ノ訴審理ヲ遂クル處

原告請求ノ要旨ハ原告ハ屠獸營業者ニシテ營業税法第一條第一號及ヒ同第十二條ニ依リ國税營業税ノ賦課ヲ受ケ居ルモノニ有之然ルニ被告ハ同法第三十六條ノ規定ニ違背シ明治三十五年佐賀縣

令第十一號ニ基キ縣税營業税トシテ屠畜税ヲ原告ニ賦課シ杵島郡武雄町長木村保太郎ハ明治三十五年十月十九日徴税傳令書ヲ原告ニ交付シタリ營業税法第三十六條ニ依ルトキハ府縣ハ同税法ニ依リ納税義務ヲ有スル營業者ノ營業ニ對シテハ本税十分ノ二以内ノ附加税ヲ徴收スルノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ府縣税又ハ地方税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニシテ原告ノ如キ屠畜營業ノ爲メ國税ヲ負擔スルモノニ對シテハ成規ノ附加税ヲ徴收スルハ格別ナレトモ附加税ノ外別ニ縣税屠畜税ヲ賦課スルハ甚タ違法ト謂ハサルヲ得ス依テ原告ハ明治三十五年十月三十日右ノ課税ニ對シテ佐賀縣知事ニ異議ヲ申立タル處明治三十五年十二月二十六日佐賀縣參事會ハ縣税營業説ハ屠畜ノ行爲ニ對シ賦課スル所ノ説目ニシテ營業税法ニ依リ賦課スルモノトハ其性質ヲ異ニス屠殺ト販賣トハ別個ノ行爲ナルカ故ニ決シテ營業税法ニ違背スル重複ノ課税ナリト謂フ可ラストノ理由ヲ以テ原告ノ異議ヲ棄却シタリ然レトモ第一屠畜營業者ノ營業ハ單ニ獸畜屠殺ノ行爲ニ止マラスシテ之ヲ販賣スルマテノ行爲ヲ包含スルハ普通ノ事態ヨリ考フルモ爭フ可ラス左レハコソ明治三十二年五月二十二日佐賀縣令第三十八號屠畜場及屠獸肉取締規則ニ於テモ其第一章第二條ニ於テ屠獸營業ノ定義ヲ與ヘテ屠獸營業トハ獸類ヲ屠殺シ卸賣ヲ爲スモノヲ云フト規定シ屠畜營業ハ屠殺卸賣ノ二要素ヲ包含スルコトヲ明ニシタルモノニシテ此縣令ト前記佐賀縣參事會ノ決定ト對照スルトキハ其決定ノ不當ナルコト一見明白ナルノミナラス此縣令ノ下ニ行動スル被告カ屠畜税ナル名目ニ依リ縣税ノ賦課ヲ爲スハ屠殺卸賣ノ行爲ニ對シ課税スルモノト見サル可ラサルカ故ニ國税營業説ト重複シテ賦課ヲ爲スノ違法アルモノト論定セサル可ラス第二、營業税法第二條末項ノ法

文ニ依ルトキハ國稅營業稅ハ一个年賣上金高一千圓以上ノ營業者ニ賦課スルモノナルヲ以テ國稅營業說ノ外縣稅タル屠畜頭數稅ヲモ徵收セラルヽモノトスレハ一个年賣上金高一千圓以上ノ營業者ハ國稅縣稅ノ重責ヲ免レサルニ拘ハラス賣上金高一千圓未滿ノ營業者ハ單ニ縣稅タル屠畜稅ヲ賦課セラルヽニ過キスシテ甚タ不衡平ナル結果ヲ生ス斯ノ如キハ決シテ稅法ノ眞意ニ非サルコト疑ヲ容ル可ラス故ニ明治三十五年佐賀縣令第十一號ノ營業稅ハ其適用單ニ一个年賣上金高一千圓未滿ノ營業者ニシテ國稅營業稅ヲ納入セサル者ニ止マリ原告ノ如キ國稅營業稅ノ納入者ニ縣稅營業稅ヲモ負擔セシムヘキモノニ非サルヘシ以上ノ次第ニ付右原告ノ屠獸營業ニ對スル屠畜稅ナル縣稅賦課及ヒ佐賀縣參事會ノ決定ハ之ヲ取消ストノ判決ヲ求ムト謂フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ原告ハ屠獸營業者ニシテ明治三十五年一月ヨリ三月迄九十五頭同年四月ヨリ九月迄百六頭ノ牛ヲ屠殺シタル旨同年十月八日附ヲ以テ屆出タリ杵島郡長ハ明治三十五年佐賀縣令第十一號ニ基キ該屆出ニ對スル屠畜稅額ヲ調定シ同月十四日附ヲ以テ武雄町長ニ對シ徵稅令書ヲ發シ武雄町長ハ之ニヨリテ更ニ徵稅傳令書ヲ調製シ同月十九日之ヲ原告ニ交付シタリ原告ハ該屠獸營業ニ付既ニ國稅ノ賦課ヲ受クルヲ以テ重テ縣稅ノ賦課ヲ受クルノ謂レナシトシ同月三十一日附ヲ以テ異議ノ申立ヲナセリ被告ハ審査ノ末該申立ヲ理由ナキモノトシ同年十二月二十六日之ヲ排斥シタリ原告ハ明治三十三年佐賀縣令第三十八號屠畜場及屠獸肉取締規則第二條ヲ援用シ屠畜營業ニハ屠殺ト卸賣トノ二要素ヲ包含スルヲ以テ屠畜稅ナル名目ニヨリ縣稅ノ賦課ヲ爲スハ屠殺卸賣ノ行爲ニ對シ課稅スルモノト見サル可ラサルカ故ニ國稅營業稅ト重複ヲナスノ違法アリト云

フト雖モ同則ハ營業取締上ノ規定ニシテ之ヲ以テ稅則ヲ論スヘキモノニ非サルノミナラス同則ニ於テモ屠殺ト販賣トヲ二個ノ行爲ト認メ居ルコトハ同條後段ニ於テ單ニ獸肉ノ仲買小賣又ハ行商スルモノヲ規定セルニヨリテ明カナリ原告カ國稅ノ賦課ヲ受クル所以ハ物品販賣業者トシテ獸肉ヲ販賣スルノ營業行爲アルニ因ル本件屠畜稅ハ單ニ屠畜ノ行爲ニ對スルモノナリ獸肉ヲ販賣スルモ屠殺ノ行爲ナケレハ之ヲ賦課セス而シテ原告ハ屠殺ト販賣トノ二行爲ヲ併セ爲スモノナルヲ以テ其販賣ナル營業行爲ニ付テハ國稅ノ賦課ヲ受ケ屠殺ノ行爲ニ付テハ屠畜稅ノ賦課ヲ受クルノミ決シテ重複ノ課稅ニアラス又原告ハ一个年賣上金千圓以上ノ營業者ハ國稅營業稅ト之ニ對スル附加縣稅及屠畜稅ノ三個課稅ヲ受ケ而シテ他ノ一方賣上金高千圓ニ滿タサルモノハ單ニ屠畜稅ノ賦課アルノミ甚タ不衡平ナリト論セルモ國稅ノ賦課ナキ販賣業者ニハ別ニ縣稅營業稅ノ賦課アルノミナラス之ヲ以テ屠畜稅ハ其適用單ニ賣上金高千圓未滿ノ營業者ノミニ止マルトスルハ頗ル謂ハレナキ見解ト云ハサルヘカラス要スルニ本件課稅ハ適法ニシテ被告ノ裁決ハ瑕瑾ナキモノナリ

ニ原告ノ請求ハ相立タストノ判決アランコトヲ求ムト謂フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

營業稅法第三十六條ハ同法ニ依リ納稅ノ義務ヲ有スル營業ニ對シテハ府縣ハ十分ノ二以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ルモ此附加稅ノ外該營業ニ對シテハ他ニ府縣稅又ハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ストノ規定ニ止マレリ本件縣稅ナル屠畜稅ハ原告カ獸畜ヲ屠殺スル行爲ニ對シ賦課スルモノナリ又其國稅ナル營業稅ハ營業稅法第一條第一號ニ所謂物品販賣業ニ該當スル原告ノ獸肉販賣業ニ對

シ課スルモノニシテ彼此其課税ノ目的ヲ異ニスルモノナレハ二者ヲ併課スルモ右營業税法第三十六條ニ抵觸スルモノニアラス原告ハ佐賀縣令第三十八號畜屠場及屠獸肉取締規則第二條ニ屠獸營業トハ獸類ヲ屠殺シ却賣ヲ爲スモノヲ云フトアルニ依リ屠獸營業ハ屠殺卸賣ノ二要素ヲ包含スルヲ以テ之ニ對シ國税ナル營業税ト縣税ナル屠畜税トヲ併課スルトキハ重複ニ賦課ヲ爲ス違法アルモノナリト云フモ右取締規則ハ警察取締上ノ規定ニシテ本件縣税賦課ノ當否ヲ決定シ得ヘキモノニアラス又原告ハ屠獸營業者ニシテ其賣上金高千圓以上ノ者ハ國税ナル營業税ト縣税ナル屠畜税トヲ賦課セラレ其賣上金高千圓以下ノ者ハ單ニ縣税ナル屠畜税ヲ賦課セラルヽニ過キサレハ二者ノ間不權衡ノ結果ヲ生スト云フモ是レ唯不權衡ノ課税ナリト云フニ過キサレハ假リニ原告申立ノ如キ事實ナリトスルモ之ヲ以テ本件屠畜税ナル縣税賦課ヲ違法ナリト爲スヲ得ス其他原告ニ於テ陳述スル所アルモ主要ノ點ト認メサルヲ以テ別ニ説明セス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

原告ノ請求相立タス訴訟費用ハ原告ノ負擔トス

◉村會議員選擧效力ニ關スル訴　明治三十六年第八十六號　明治三十六年十月二日宣告（請求相立）

判決要旨

一、村會議員選擧人名簿ハ訴願訴訟ノ結果ニ依ルニアラサレハ

之ヲ變更スルコトヲ得ス從テ前年度ノ納税額ヲ標準トシテ調製シタル名簿ト雖モ已ニ確定シタル以上ハ其ノ名簿ハ法律上適法ニシテ之ニ依リテ執行シタル選擧ハ無效タルヘキモノニアラス

原告　押川正信　高知縣幡多郡和田村長

被告　宗像政　高知縣參事會　高知縣知事

右當事間ニ於ケル村會議員選擧効力ニ關スル訴訟雙方ノ書面ニ依リ審理ヲ遂クル處

原告訴フル要旨ハ和田村會議員半數改選ハ明治三十四年四月二十日ナルヲ以テ同年二月十九日選擧原簿ヲ製シ尋テ選擧人名簿ヲ製シ適法ニ確定名簿トナリ同年四月二十日選擧ヲ執行セシニ二級選擧ハ訴願者アリ無効ノ裁決トナリ更ニ同年九月二十九日選擧ヲ爲シタルニ右選擧ヲ無効ナリト主張シ訴願スル者アリ本村會及ヒ郡參事會ハ有効ナリト裁決シタルニ被告參事會ハ之ニ反シ右選擧ヲ無効ト裁判シタリ其理由トスル所ハ本選擧ニ用ヒタル選擧原簿ハ明治三十二年度ノ納税額ヲ標準トシタルヲ以テ之ヲ違法トシタルモノナルモ其原簿ニ基キ調製シタル選擧人名簿ハ町村制第十八條ニ依リ確定シタルモノナレハ其名簿ニ對スル異議ハ同條ニ揭クル期間滿了後ニ於テハ申立

ルノ權ナシ然ルニ被告ハ適法ニ確定シタル名簿ヲ顧ミス該選擧ヲ無效ト裁決シタルハ不當ノモノナリ依テ被告カ明治三十六年二月五日附東正保及河原鶴馬ニ與ヘタル裁決ノ取消ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ町村會議員選擧原簿ハ選擧ニ接近スル時期ニ於テ調製スルモノナルヲ以テ原簿調製當時即明治三十三年度ノ納稅負擔額ヲ標準トシ調製スヘキヲ原告ハ選擧時期ノ前年度ニ當ル明治三十二年度ノ納稅額ヲ標準トシテ選擧原簿ヲ製シタルハ不當ナリ又原告ハ選擧人名簿確定シタルトキハ假令一部ノ瑕瑾アリトスルモ法律上有效ナリト云フモ本件ノ如キハ一部ノ瑕瑾ト云フヘキモノニアラスシテ名簿ノ調製上法律ノ適用ヲ誤リ其名簿ニ登載ノ事項ハ全部法律ノ認メサル事項ナルヲ以テ之ヲ有效ト云フヲ得サルノミナラス之ニ基キテ執行シタル選擧ハ法律ノ命シタル以外ノ結果ヲ生スヘキヲ以テ其選擧モ亦有效ト云フヲ得ス又原告ハ選擧人名簿ニ對スル異議ハ制第十八條ニ定ムル期間滿了ノ後ニ在テハ之ヲ申立ルコトヲ得スト云フト雖本件ハ制第十八條ノ名簿ニ對スル異議ニアラスシテ制第二十九條ノ選擧ノ效力ニ關スル訴願ナルヲ以テ制第十八條ノ期間ニ關係スルモノニアラス故ニ被告ノ裁決ハ適法ナルニ依リ原告ノ主張ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スル左ノ如シ

被告ハ選擧原簿ハ選擧ニ接近スル時期ノ納稅額ヲ標準トシ調製スヘキモノナルニ本件選擧ニ用ヒタル名簿ハ前年度ノ納稅額ヲ標準トシタルモノナレハ全部法律ノ認メサル事項ナルヲ以テ之ヲ有

效ト云フヲ得サルノミナラス之ニ基キ執行シタル選擧ハ有效ニアラスト云フト雖町村會議員選擧人名簿ハ町村制第十八條ニ基ク訴願訴訟ノ結果ニ因ルニアラサレハ動カスコトヲ得サルモノナレハ事實前年度ノ納稅額ヲ標準トシ調製シタルモ該名簿ハ既ニ確定シタルモノナルヲ以テ法律上正當ノモノト謂ハサルヘカラス從テ該名簿ニ依リ執行シタル選擧ハ無效ニ非ス又被告ハ本件ハ町村制第十八條ニ對スル異議ニアラスシテ同制第二十九條ノ選擧ノ效力ニ關スルモノナリト主張スルモ前段ニ說明スル如ク本件選擧ニ用ヒタル名簿ハ既ニ確定シタルモノナレハ選擧ノ效力ニ關スル場合ニ於テモ該名簿全體ヲ無效トシテ爭フコトヲ得サルモノトス

依テ判決スル左ノ如シ

明治三十六年二月五日附被告カ東正保及河原鶴馬ニ與ヘタル裁決ハ之ヲ取消ス

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

◉收用審査會ノ裁決不服ノ訴

明治三十五年第三百六十八號
明治三十六年十月二十三日第一部宣告
（請求一部相立）

判決要旨

一、數多ノ職工ヲ使用スル營業工場ヲ土地收用ノ爲メ他ニ移轉セシムルニ當テハ若干ノ日時間休業スルト同時ニ職工モ亦休止セシムヘキハ免カレサル所ナルヲ以テ收用審査會カ之

營業工場ノ移轉ニ因ル損害ノ賠償

ナ否認シタルハ土地收用法第五十四條ニ違背スルモノトス

（參照）前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因テ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ（土地收用法第五十四條）

東京市本所區長崎町十六番地
士族無業
原告　石井銀三郎外四名
訴訟代理人　磯部四郎　磯部省吾　栗塚武夫　菊池三郎　立木頼太郎　新井要

東京府收用審査會會長
東京府知事男爵
被告　千家尊福
訴訟代理人　富田秀雄

右當事者間ニ於ケル收用審査會ノ裁決不服ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳辯ノ要旨ハ本訴ハ起業者總武鐵道株式會社ノ爲メ被告收用審査會ハ明治三十五年十一月二十九日別紙所載ノ如ク裁決ヲ與ヘタレトモ原告ハ之ニ服スル能ハサルヲ以テ茲ニ出訴シタリ其理由ハ第一原告石井銀三郎ニ對シテハ被告ハ單ニ收用地ノ損失補償ノミヲ認メ收用殘地ニ付テハ損失補償ヲ認メス然レトモ原告所有地中東南ノ一隅收用地ヲ含メテ約六十一坪二合五勺ヲ從來成田增吉ニ賃貸シタルモノナルニ收用ノ爲メ成田增吉ハ他ニ移轉セサルヘカラサルコトヽナリ從テ原告ハ從來ノ借地料ヲ失フハ勿論更ニ殘地ヲ他人ニ賃貸セントスルモ地積狹小ニ過キ且鐵路ニ接スルヲ以テ到底適當ノ借地人ヲ見出ス能ハス而シテ右同一ノ損害ハ原告ノ所有地中收用地ニ沿ヒ南西部ニ亘ル一帶ノ土地ニ對シテモ存スルモノトス第二原告成田增吉ニ對シテハ被告ハ原告所有ノ

工場外四棟並ニ其他ノ地上物件ニ付テハ移轉料ヲ認定シタレトモ其工場ヲ移轉セシムルニ依テ必然生スヘキ損害ニ對シ毫モ補償ヲ認メサルハ不當ナリ原告ハ前記工場ニ於テ內勤十一名ノ職工ヲ使役シ現ニ一日ノ營業收益金三圓三十錢ヅヽヲ收得シアルニ今工場ヲ他ニ移轉セシムルニ當リテハ少トモ五个月ヲ要スヘク其間內勤職工ヲシテ徒會セシメ尙日給ノ幾分ハ之ヲ支給セサルヲ得ス加之若シ遠隔ノ地ニ移轉スル者トセハ從來漸ニシテ得タル附近小口ノ得意ヲ一時ニ失ニ至リ其損害ヤ測リ知ルヘカラサルモノトス第三原告室木重三郎ニ對シテハ被告ハ收用地並ニ收用殘地ニ跨リ存在スル三棟ノ建物ニ付キ移轉料ヲ補償スヘクト裁決シタレトモ右建物敷地ノ殘分四十五坪ノ損害補償ヲ認メサルハ不當ナリ右宅地ハ素ヨリ收用地ニ沿フテ存スル狹小長ノ地積ナルヲ以テ假リニ之ヲ他ニ賃貸スルモノトシ其地代カ著シク減額スヘキハ論ヲ須タス加之適當ノ賃借人ヲ見出迄空地トナシ置クカ爲メニ生スル損害モ少カラス第四原告河野松五郎ニ對シテハ被告ハ原告ノ所有宅地五百九十八坪五合ノ內二百十三坪ヲ收用シナカラ其結果原告ニ生スル損害ニ付テハ何等補償ヲ認メサリシハ不當ナリ元來原告ハ該宅地上ニ玻璃製造工場ヲ所有シ工場其他建造物ハ一ニ地利ニ從ヒ安排構造セリ故ニ該宅地ノ殆ト半部ヲ失フニ依テ原告ニ生スヘキ損害ヲ算スレハ（一）營業上最モ重要ナル烟筒ヲ支持スル爲メニスル張鐵ヲ固着セシムヘキ場所ナキニ至リ從テ他ノ適地ニ移轉セサルヲ得ス或ハ從來ノ烟筒ノ地位ヲ變セスシテ支持線ヲ要セサル煉化石造ノモノトナサハ前ニ述フル如キ損害ヲ來サヽルカノ觀アレトモ本烟筒ハ高八丈ノモノナルヲ以テ莫大ナル新設費用ヲ要スルノミナラス震災其他ノ事變ニ際シ危險甚シキモ思ハサルヘカラス（二）若シ右烟筒ノ

位置ヲ變更セント欲セハ之ニ伴フテ工場全部ノ構造ヲ變更セサルヘカラス(三)右工場ヲ變更セシト欲セハ從テ住宅ノ全部ヲモ變更セサルヲ得サル必要アルコトハ宅地ノ地形上顯著ナル事實ナリトス(四)加之收用地ニ屬シ從來宅地タリシ場所ハ原告ノ如キ手廣ク玻璃ヲ製造スルモノニ在リテハ原料ヲ乾燥貯藏並ニ加工スルカ爲メ及ヒ製品ヲ貯藏荷造スル等ノ爲メ必要缺クヘカラサル場所ナルヲ以テ今構内大部分ヲ收用セラレタル結果營業ノ規模ヲ一變セシメサルヲ得サルニ至レリ(五)原告所有地西部ニ存スル本造瓦葺平家一棟二十八坪二合八勺ノ内被告ハ十四坪分丈ケノ移轉料ヲ認メタレトモ元來一棟ノ建物トシテ設計シタルモノナレハ其一部收用セラルヽトキハ殘部ノミニテ完全ニ一棟ノ建物トシテ其用ニ堪フヘキモノニアラサレハ其殘部ニ對シ損害ノ補償ヲ認メサルハ不當ナリトス第五原告中島錦五郎ニ對シテハ被告ハ(一)龜澤町一丁目三十三番地ノ内南側殘地全部ニ對スル損害補償ヲ認メタレトモ同ク地積ノ縮小ニ依テ從來使用ノ目的ヲ變更セサルヲ得サルニ至ラシメタル北側殘地ニ對シ損害ノ補償ヲ認メサルハ不當ナリ(二)同所三十八番地一號三號北側殘地八坪九合ニ對シテハ損害補償ヲ認メタレトモ同地ト聯結シテ一宅地ヲ爲ス三十九番地ニ對シテハ被告ハ損害補償ヲ認メス凡ソ土地收用法ニ所謂關係人ノ受クル損失トハ客觀的ニ各人生活ノ程度ニ照應シテ之ヲ定メサルヘカラス原告ハ性來園藝ニ嗜好ノモノニシテ格外ノ代價ヲ拂ヒテ隣地ヲ買收シ漸ク今日ノ庭園ヲ作シ一家ノ面目ヲ保ツヲ得タルニ今回其庭園ノ大部分ハ收用セラレ殆ト樹木草花ヲ收容スル餘地ナキヲ以テ邸宅ノ構造ヲ一變セシメサルヲ得サルニ至レリ(三)同所五十番地收用地ニ沿フテ北側千坪七合六勺ニ對シ被告ハ收用ノ請求ヲ否認シタレトモ右

宅地ハ收用地ニ存セシ貸長屋ノ爲メニ設ケタル小路ニシテ殘地ノ他ノ部分トハ明カニ塀墻ヲ以テ區劃セリ左レハ今更右塀墻ヲ撤シタレハトテ何等ノ收益若クハ便利ヲ得ル能ハサルノミナラス荒廢何等ノ用ヲ爲サヽル結果ヲ見ルニ至ル以上原告等ノ主張スル所ハ高架鐵道ノ敷設ニ依リ元來住居タリ工場タリ貸地タリ其何タルヲ問ハス夫々地形ニ鑑ミ身分ニ應シテ一定ノ計畫方針ノ上ヨリ打算シテ現狀ニ在ルモノナルニ拘ハラス一朝其大部分若クハ一部ヲ收用セラルヽカ爲メ全體ノ計畫方針ニ影響ヲ及ホシ諸種ノ損害ヲ被ムルニ至ルハ明カナル事實ナリシニ被告カ之ヲ否認シタルハ不當モ亦甚シ仍テ被告ハ明治三十五年十一月廿九日原告ニ對シ與ヘタル裁決ヲ取消シ更ニ起業者ハ原告石井銀三郎ニ對シテハ東京市本所區長崎町十六番地市街宅地收用殘地ノ内南部收用ニ沿フ九十坪ニ對シ損害ヲ補償スヘシト原告成田增吉ニ對シテハ同市同區長崎町十六番地所在所有ノ工場ヲ移轉セシムルニヨリテ生スル損害ヲ補償スヘシト原告室木重三郎ニ對シテハ同市同區綠町五丁目三十五番地收用殘地ノ内北部收用地ニ沿フ四十五坪ニ對スル損害ヲ補償スヘシト原告河野松五郎ニ對シテハ同市同區綠町一丁目二十八番地ノ一號市街宅地三百六十坪八合八勺中百七十一坪收用セラレタルカ爲メ工場ノ移轉其他營業上ニ生スル損害ヲ補償スヘク同番地西部所在木造瓦葺平家一棟(此建坪二十八坪二合八勺)ノ内收用殘部ニ對スル損害ヲ補償スヘシト原告中島錦五郎ニ對シテハ同市同區龜澤町一丁目三十三番地收用殘地三十七坪及同所三十九番地市街宅地三百二十坪五合一勺ニ對スル損害ヲ補償スヘク且ツ同所五十番地收用地ニ沿フ北側十坪七七六勺ヲ收用スヘシト判決ヲ求ムト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ第一原告石井銀三郎ニ對シテハ收用地ハ宅地ノ僅少部分ニ止ムルヲ以テ殘地ハ完全ニ宅地ノ効用ヲ爲シ得ヘク且ツ現ニ宅地廣キヲ以テ原告申立ノ如ク隨時貸貸シ得サル理由ナカルヘク又貸地料ノ減少スル謂レナルヲ認メス第二原告成田增吉ニ對シテハ營業休止中ノ損害及附近小口ノ得意ヲ失スルモノト認メス第三原告室木重三郎ニ對シテハ收用地ハ宅地ノ一端ニシテ其殘地廣ク完全ニ宅地ノ用ヲ爲シ得ヘク之ヲ貸貸ニ付スルモ地代ノ減小スルヲ認メス第四原告河野松五郎ニ對シテハ(一)煙筒ハ支持線ノ位置ヲ變スルモ充分ニ維持シ得ルヲ以テ更ニ煙筒ヲ移轉スルノ必要アルヲ認メス從テ(二)(三)工場及住宅全部ノ位置ヲ變更スルノ要ナシ(四)空地縮少スルテ以テ原料ノ乾燥荷造等ニ差支ヘ規模ノ變更ヲ要スト云フモ宅地ノ一端ヲ攻用スルモノナルカ故ニ殘地尙ホ廣ク宅地モ多クシテ事實申立ノ如キ差支アルヲ認メス(五)木造瓦葺平家一棟ノ內一部分ヲ補償シ一部分ヲ補償セサルモ元來該家屋ハ一棟ノ內二戸ニ區劃シ其構造上一戸分ヲ切取リ移轉スルモ他ノ一戸分ハ其儘住宅ニ供シ得ルモノナリ而シテ其切取リノ家屋ニ對シテハ一坪金二十五圓ノ移轉料仕拂フヘクト裁決シタルハ殘存家屋ニ對シ多少修理ヲ要スルモノト認メ他ノ家ノ移轉料一坪二十二圓ニ比シ一坪三圓ノ增加ヲ爲シアリ故ニ殘存家屋ニ對シ更ニ損失ヲ補償スル必要アルヘカラス第五原告中島錦五郎ニ對シテハ(一)龜澤町一丁目三十三番地ノ北側殘地ハ南側殘地ニ比シ面積廣ク且ツ二方道路ニ接シ完全ニ宅地トシテ使用スルヲ得ヘク何等損失ナキハ勿論毫モ從來ノ價路ヲ保持スルヲ得スト認メス又タ原告ハ(二)同町三十八番地ノ補償ヲ認メナカラ三十九番地ノ補償ヲ認メサルハ不當ナリト申立レトモ收用殘地ノ補償ヲ認メタルハ更ラニ收用ニ

關係ナキ三十九番地ノ補償ヲ認ムルノ理由トナラス又庭園嗜好上邸宅ノ構造ヲ一變セサルヲ得サルニ至リタルニ拘ハス是ラ等ノ損失ヲ補償セサルハ不當ナリト云フモ庭園ノ一部收用セラレタル爲メ殘部ノ庭園ハ所用ノ目的ニ供スルコト能ハスト言フヲ得ス(三)同町五十番地收用殘地百六十五坪五合八勺ノ內十坪七合六勺ニ對シ收用ヲ要求スレトモ該地ハ殘地ノ他ノ部分ト併合スルヲ得ヘクシテ更ニ荒蕪不用ニ歸セシムヘキ理由毫モ存在セス右ノ理由ナルヲ以テ原告ノ請求ハ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スル左ノ如シ

第一原告石井銀三郎ハ收用殘地ノ內九十坪ニ對シ損害アリト申立ルモ原告ノ所有地ハ四百三十二坪餘ニシテ收用セラルヽ面積ハ僅ニ南端ノ七十五坪ニ止ルモノナレハ其殘地ハ充分從來使用ノ目的ニ供シ得ヘキヲ以テ損害アリト認ムルヲ得ス第二原告成田增吉ノ要求中被告ハ營業休止中ノ損害ヲ認メスト主張スルモ現ニ數多ノ職工ヲ使用シテ營業シアルコトハ被告モ爭ハサル所ニシテ其營業工場ヲ他ニ移轉セシムルニ付テハ若干ノ日時間ハ休業スルト同時ニ職工モ亦休止セシムヘキハ事實上免カレサルモノナルニ之ヲ否認シタルハ土地收用法第五十四條ニ違背スルモノトス其他原告カ要求スル移轉ニ伴フ損失及附近小口ノ得意ヲ一時ニ失フトノ點ハ實況ニ照ラシ損失アリト認ムルヲ得ス第三原告室木重三郎ハ收用殘地四十五坪ノ宅地ハ收用地ニ沿フテ存スル狹小長ノ地積ナルヲ以テ其地代カ著ク減額スヘキハ勿論適當ノ賃借人ヲ見出ス迄空地トナシ置ク爲メニ生スル損害少カラスト辯スルモ收用地ハ原告所有地ノ一端ニシテ其殘地ハ宅地ト爲スニ足ルヘキヲ以

テ損害アリト認メ難シ第四原告河野松五郎ハ(一)營業上最必要ナル煙筒ヲ支持スル張鐵ヲ固着スル場所ヲ收用セラレ他ニ附着スヘキ場所ナキニ依リ之ヲ他ノ適地ニ移轉セシメサルヲ得スト申立ルモ右支持ノ張鐵ハ原告モ異議ヲ容レサル東京府技師工學博士原龍太ノ調査書ニ依レハ鐵道橋脚ヲ利用シ又ハ木柱ヲ使用スルニ於テハ從來用ヒタル目的ニ供シ得ヘキヲ以テ該煙筒ハ他ニ移轉スルノ必要ナキモノト認定ス(二)工場ノ變更(三)住宅ノ變更ハ前段說明ノ如ク煙筒ノ移轉ヲ要セサル以上ハ從テ營業上損害アリト認ムルヲ得ス(四)原告ハ從來空地タリシ場所ハ玻璃製造ニハ原料ノ乾燥貯藏並加工スルカ爲メ及ヒ製品ヲ貯藏荷造スル等ノ爲メ必要缺クヘカラサル場所ナリト主張スルモ宅地ノ殘存地ハ原告云フ所ニ依ルモ約二十坪程ハ之レアルモノナレハ原料ノ乾燥荷造其他ニ差支アルモノト認ムルヲ得ス(五)被告ハ木造瓦葺平家一棟ノ內一部分ヲ補償シテ殘一部分ヲ補償セサルハ元來該家屋ハ一棟ヲ二戸ニ區劃シ其構造上一戸分ヲ切取移轉スルモ殘一戸分ハ其儘住宅ニ供シ得ルカ故ナリト云フモ右家屋ハ一棟ノ構造ニシテ壁一重ヲ以テ二戸ニ區分シタルモノナレハ其一戸ヲ切取移轉セシムルニ於テハ殘家屋ニ對シ家根其他ノ改修ヲ爲スノ必要アルハ實地ノ形狀ニ照シ明白ノ事實ナリトス然レハ此點ニ關スル被告ノ裁決ハ土地收用法第五十三條ニ背キタルモノトス又被告ハ前段ノ殘存家屋ニ對シテハ多少修繕ヲ要スルモノトシ其切取家屋ニ對シ與フル移轉料一坪金二十五圓ハ他ノ移轉料一坪金二十二圓ニ比シ三圓ツヽ增加シアリト申立ルモ裁決書ニ依レハ右等ノ事跡ナク又他ニ證スヘキモノナキヲ以テ之ヲ認ムルヲ得ス第五原告中島金五郎ハ(一)龜澤町一丁目三十三番地ノ北側收用殘地ハ地積狹小ニシテ從來使用ノ目的ニ供スル能ハ

スト主張スルモ該地ハ二方道路ニ接シ宅地トシテ使用スルニ足ルモノナルヲ以テ損害アリト認ムルヲ得ス(二)被告ハ同町三十九番地ハ收用ニ關係ナク豐ツ庭園ノ殘部ハ所用ノ目的ニ供スル能ハサルモノニアラスト辯スルモ同町三十八番地ト三十九番地トハ合併シテ一構ノ邸宅地トナシ現形區分ナキモノナレハ其ノ收用地ハ三十八番地ニ止ルモ之ヲ以テ收用地ニ關係ナシト謂フヲ得ス而シテ三十九番地ニ在ル西洋形家屋ノ南面土臺石ト收用地トノ距離ハ曲尺六尺許ニシテ鐵道工事ノ完成スルニ於テハ南方ノ玻璃窓ハ明ヲ缺キ又空氣ノ流通ヲ減却シ且ツ近接ノ庭園ヲ失ヒ從來用ヒタル目的ヲ損シ遂ニ價格ヲ減少スルモノト認定スルヲ相當トス(三)被告ハ同町五十番地ノ內十坪七合六勺ハ收用殘地ノ他ノ部分ト併テ利用スルヲ得ヘシト云フモ該地ハ收用地ト一體ノ構內ニシテ他ノ殘地トハ判然塀墻ヲ以テ區劃シ從前格別ニ使用シ來リタルモノナレハ之ヲ他ノ部分ニ合併スルモ從來用ヒタル目的ニ供スルコトヲ得ヘシト認メ難シ

右ノ理由ナルヲ以テ判決スル左ノ如シ

被告ハ明治三十五年十一月二十九日原告ニ與ヘタル裁決事項中次ニ掲クル部分ヲ取消更ニ起業者ヲシテ原告成田增吉ニ對シテハ職工休止ニ屬スル損害ノ補償原告中島錦五郎ニ對シテハ木造瓦葺平家一棟ノ內殘存部分ノ家屋ノ損害補償原告河野松五郎ニ對シテハ木造瓦葺ル家屋ノ補償並ニ同町五十番地ノ內收用地ニ沿フ十坪七合六勺ヲ收用セシムヘシ

右ノ外原告ノ請求相立タス

訴訟費用ハ原告被告各自辨トス

營業工場ノ移轉ニ因ル損害ノ補償

◉市税國税營業割不當賦課取消ノ訴

明治三十五年第三百七十六號
明治三十六年十月七日第一部宣告（請求相立）

判決要旨

一、原告カ、其申立ヲ減縮スルモ訴ノ原因ヲ變更セサルトキハ被告ハ之ヲ以テ妨訴ノ理由ト爲スヲ得ス

一、市ノ營業者カ其營業ニ付キ市税ヲ納ムルノ義務ハ市内ニ於テ營業行爲ヲ爲スニ依リ發生スルモノナレハ其以前他ノ市町村ニ於テ爲シタル營業ニ付テハ納税ノ義務ヲ有セス

原　福岡縣門司市　九州鐵道株式會社
告

右代表者　右會社取締役社長　仙石貢

訴訟代理人　岸清一　伊藤和三郎

被　福岡縣參事官　福岡縣知事　河島醇

訴訟代理人　竹内熊二

右當事者間ニ於ケル市税國税營業割不當賦課取消ノ訴審理ヲ遂クル處

原告陳述ノ要旨ハ明治三十四年九月九日原告九州鐵道株式會社ニ合併シタル豐州鐵道株式會社ハ先キニ京都郡行橋町ニ於テ營業所ヲ有シタル者ニシテ同年八月三十日行橋町長ヨリ明治三十四年

度隨時收入トシテ同年七、八、九月分ノ國税營業税町税營業割金二千六十七圓二十二錢八厘國税營業税百分ノ五十ノ割合ノ賦課ヲ受ケ同年十一月七日之ヲ納付シタリ然ルニ同年十一月十日門司市長ハ原告ニ對シ明治三十四年度後半期市税國税營業割金四千一百三十四圓四十五錢六厘本税百分ノ五十ノ割合ノ徵税令書ヲ發シタリ是原告ノ不服ナル所ナリ左ニ其理由ヲ述ヘンニ市カ其區内ニ於ケル營業者ニ市制第九十條ニ基キ營業税ノ附加税ヲ賦課スルニハ其區内ニ於テ營業ヲ爲スヲ要スルハ市制第九十二條九十三條ニ依リ明カナリ故ニ市内營業者ノ其市ニ對スル營業税附加税ノ納税義務ハ其市内ニ於テ營業税ヲ納付スルニ依テ發生スルモノニ非ス即チ市カ營業者ニ對シ營業税ノ附加税ヲ賦課スルハ其區内ニ於ケル營業行爲ニ對スルモノニシテ其主税タル營業税ハ附加税ノ加税標準タルニ過キス本件係爭ノ元豐州鐵道株式會社ノ營業ハ明治三十四年九月九日ニ至ル迄ハ京都郡行橋町ニ於テ之ヲ爲シ同日ニ至リ原告會社ト合併シタル結果其營業ヲ原告會社ニ於テ承繼シ門司市内ニ於テ之ヲ爲スニ至レリ故ニ元豐州鐵道株式會社ノ營業ニ對シ行橋町ノ課税權ハ明治三十四年九月九日迄ノ營業ニ對シテ存シ門司市ノ課税權ハ同日以降ニ於テ始メテ發生スルモノト云ハサルヘカラス而シテ元豐州鐵道株式會社ハ其營業ニ關シ明治三十四年度ノ營業税附加税タル主税ノ年額百分ノ五十中前半期分ハ主税徵收ト同時ニ行橋町ニ納付シ後半期中七、八、九月ノ三ケ月分即金二千六十七圓二十二錢八厘ハ同年十一月七日之ヲ納付シタリ是行橋町カ元豐州鐵道株式會社ニ對シ其町内ニ於ケル同會社ノ營業ニ關シ附加シタル課税ニシテ正當ノ理由アルモノト信ス然ルニ門司市カ明治三十四年十一月十日ヲ以テ元豐州鐵道株式會社ノ營業ニ關シ市税國税營業割

トシテ同年度下半期全部ノ附加稅即チ金四千一百三十四圓四十五錢六厘ノ納稅ヲ命シタルハ不當ナリ何トナレハ元豐州鐵道株式會社ノ營業ハ明治三十四年九月九日迄ハ行橋町ニ於テ之ヲ爲シ同日以後ハ原告ニ於テ其營業ヲ承繼シ門司市ニ於テ之ヲ爲セリ故ニ其營業ハ明治三十四年度後半期ニ於テ場所ノ變更アリタリト雖國家ヨリ之ヲ見ルトキハ其營業ハ間斷ナク繼續セルモノナルヲ以テ明治三十四年度後半期全部ニ付原告ニ對シ營業稅ヲ賦課スルハ至當ナルモ門司市ヨリ見ルトキハ原告ノ營業ハ其區內ニ於テハ同年九月九日ヨリ開始セルモノナルヲ以テ同日以後同年十二月マテノ期間ノ主稅ヲ標準トシ其百分ノ五十ノ割合ヲ以テ附加スルヲ相當トス依テ本件被告ノ裁決及門司市長カ原告ニ賦課シタル金四千百三十四圓四十五錢六厘ノ十八分ノ七ヲ取消サレタシト云フニ在リ

被告答辯ノ要旨ハ第一原告ハ第一次ニ於テ門司市參事會ニ對シ市稅國稅營業割金四千一百三十四圓四十五錢六厘ヲ取消サレンコトヲ訴願シ第二次ニ於テ福岡縣參事會ニ對シ市稅國稅營業割全部ヲ取消サレンコトヲ訴願シ第三次本訴ニ於テ金四千一百三十四圓四十五錢六厘ノ十八分ノ七ヲ取消サレンコトヲ訴求セリ故ニ原告ノ第一次及第二次訴願ニ於ケル要求ハ本訴ニ於ケル要求ト相違セルモノニシテ被告ハ未タ此要求ニ對シ裁決セサルヲ以テ原告ハ本訴ノ要求ニ付テハ未タ行政裁判所ノ審理ヲ仰クヘキ程度ニ至ラサルモノト信ス若夫レ下級行政廳ニ於ケル爭論ト行政裁判所ニ於ケル爭議ト相關聯セリトノ點ノミヲ以テ其一定ノ申立即訴求變更ノ有無ヲ問ハサルモノトセハ訴願ニ關聯セル事項ニ對シテハ常ニ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ヘシ是蓋シ立法ノ意思ニアラサルヘ

シ又假ニ原告所爭ノ如ク不當ノ賦課アルモノトセハ賦課全體ニ於テ不法ニ歸スヘキヲ以テ之ヲ分割シテ其正否ヲ論スルヲ得ス故ニ原告ノ訴求ハ自ラ其不當トセル賦課ヲ是認スルモノニシテ其論旨矛盾セルノミナラス結局不能ヲ强フルモノナリ

第二本件國稅營業割ハ門司市カ市制第九十條第一項第一號ニ基キ賦課シタル附加稅ニシテ其賦課徵收ノ方法ハ市制第三十一條ニ依リ門司市會ノ議決シタル甲第二號證賦課徵收規則第三條ニ基キタルモノナルコト及原告會社ノ明治三十四年度後半期ニ對スル國稅營業稅カ金八千二百六十八圓九十一錢二厘ナルコトハ原告モ爭ハサル所ナリ然レハ門司市カ明治三十四年十一月六日附ヲ以テ所轄稅務署長ノ發シタル原告會社ニ對スル納額告知書ニ基キ徵收規則第三條ニ從ヒ本稅ノ百分ノ十ナル金四千一百三十四圓四十五錢六厘ヲ本稅ト同時ニ徵收シタルハ當然ナリ而シテ門司市カ附加稅ヲ賦課スルニ當リ月割又ハ日割計算ノ方法ニ依ルト依ラサルト又其他ノ方法ニ依ルト否トハ全然門司市會ノ權能ニ屬シ而シテ徵收規則第三條ハ營業地ニ關シ何等ノ規定スル所ナキヲ以テ其營業地ノ何處タルヲ問ハス單ニ本稅ト同時ニ豫算ノ課率タル本稅ノ百分ノ五十ヲ附加スヘキ趣旨タルコト炳然タリ況ヤ明治三十三年法律第四十六號ヲ以テ市制第百條ヲ削除セラレタル今日ニ於テ原告ハ月割計算ヲ要求スル能ハサル明確ナルニ於テオヤ以上ノ次第ナレハ原告ノ訴求ハ正當ノ理由ナキモノナルヲ以テ之ヲ排斥セラレタシト云フニ在リ

依テ本件裁判ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

第一點原告ハ第一次ニ於テ門司市參事會ニ對シ市稅國稅營業割金四千一百三十四圓四十五錢六厘

中立ノ減縮ト妨訴抗辯○市ノ營業者ノ納稅義務

ノ取消ヲ訴願シ第二次ニ於テ福岡縣參事會ニ對シ市稅國稅營業割金部ノ取消ヲ訴願シ第三次本訴ニ於テ金四千一百三十四圓四十五錢六厘ノ十八分ノ七ヲ取消サレンコトヲ訴求スル者ナルモ是唯其申立ヲ減縮シタル迄ニシテ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非サレハ之ヲ以テ妨訴ノ理由ト爲スヲ得ス

第二點市制第九十三條ニ市內ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムルモノトストアリ之ニ由レハ市ノ營業者ハ其營業ニ付市稅ヲ納ムルノ義務アルヲ認ムヘキト同時ニ其義務ハ市內ニ於テ營業ヲ爲スニ依リ始メテ生スルモノナルヲ認ムヘク隨テ其以前他ノ市町村ニ於テ爲シタル營業ニ付テハ納稅ノ義務ナキモノト謂ハサルヲ得ス然レハ被告ニ於テ元豐州鐵道株式會社ニ合併スル前即豐州鐵道株式會社カ九州鐵道株式會社カ行橋町ニ於テ爲シタル營業ニ對シ本件市稅ヲ賦課シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス

依テ判決スルコト左ノ如シ

被告ハ明治三十四年十一月十日門司市長カ原告ニ賦課シタル國稅營業稅附加稅金四千一百三十圓四十五錢六厘ノ內元豐州鐵道株式會社カ行橋町ニ於テ爲シタル營業ニ對スル分ヲ取消スヘシ

訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

●漁業場區域侵害事件違法判決取消請求ノ訴ニ對スル妨訴抗辯（明治三十六年第百三十一號　明治三十六年十月二十三日宣告）（抗辯不立）

判決要旨

一、行政訴訟ノ提起ニ付キ訴願ノ順序ヲ經ルハ法律ニ明文アル場合ニ限ル法律ニ何等ノ明文ナク單ニ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキ規定ノミ存スルトキハ直チニ行政訴訟ヲ提起スヘク是ニ對シ訴願ヲ爲スコトヲ得ス

（參照）漁場ノ區域、漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得」前項ノ裁決ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル申請者又ハ爭議ノ相手方ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得（漁業法第二十五條）

原告　北海道瀛都郡瀛都町大字矢道町二十五番地平民漁業畑谷熊太郎　訴訟代理人　高木益太郎

被告　北海道廳瀛都支廳長　北海道廳　訴訟代理人　都築幹太郎

右當事者間ノ漁場區域損害事件違法裁決取消請求ノ訴訟ニ付被告ハ妨抗訴辯ヲ爲シタリ依テ審理ヲ遂クル處

被告抗辯ノ要旨ハ原告ハ被告カ原告ノ申請ニ係ル漁場區域損害事件ニ對スル裁決申請ヲ却下シタ

ルヲ不法ナリトシ直ニ行政訴訟ヲ提起シタリト雖モ抑モ行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得サルモノナルコトハ行政裁判法第十七條第一項ノ示ス所ニシテ而シテ現今北海道廳支廳長ハ明治三十年勅令第三百九十二號北海道廳官制第二十八條ニヨリ長官ノ指揮監督ヲ受ケサルヘカラス從テ北海道廳壽都支廳ハ地方下級行政廳ニシテ北海道廳ハ地方上級行政廳タリ故ニ北海道廳壽都支廳長ノ處分ニ對シ行政訴訟ヲ提起セントスルトキハ法律勅令ニ特別ノ規程ナキ限リハ先ツ北海道廳長官ニ訴願セサルヘカラス而シテ本件訴訟ニ關スル明治三十四年法律第三十四號漁業法ニ於テハ行政訴訟ニ關シ何等規程ナキニ原告ハ上級行政廳ニ訴願ノ順序ヲ履マス直チニ本訴ヲ提起シタルハ不適法ノ出訴ナリトス依テ本訴ハ棄却アランコトヲ請求スト云フニ在リ

原告辯駁ノ要旨ハ明治三十四年法律第三十四號漁業法第二十三條第二十四條第二十五條ノ各法文ヲ閲スルニ第二十三條ニ於テハ訴願ヲ提起シ而シテ後ニ行政訴訟ニ及フヘキ順序ヲ示シ其第二十四條ニ於テハ直ニ行政訴訟ヲ提起シ得ヘキコトヲ示シ其第二十五條ニ至ツテハ爭議ノ裁決ヲ行政官廳ニ申請スルヲ得ヘキコトヲ單ニ規定シ而シテ其二項ニ前項ノ裁決ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル申請者又ハ爭議ノ相手方ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定セルハ取モ直サス行政裁判法第十七條ノ法律勅令ニ特別ノ規定アルモノト云フヲ得ヘキノミナラス北海道廳壽都支廳ハ北海道廳ノ出張所ニ外ナラサレハ上級行政廳ト稱スヘカラサルモノナルヲ以テ同支廳長赤壁二郎ノ與ヘタル裁決ニ對シ直ニ行政訴訟ヲ提起シタルハ不法ニアラス依テ被告ノ妨訴抗辯

ハ却下セラレタシト謂フニ在リ

依テ判決ノ理由ヲ說明スルコト左ノ如シ

漁業法第二十五條第一項ニ規定スル爭議ノ裁決ニ付テハ同法及ヒ其他ノ法令ニ訴願ヲ爲シ得ヘキコトノ規定ナクシテ同條第二項ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定スレハ該爭議ノ裁決ニ對シテハ單ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘク訴願ヲ爲スコトヲ得サルモノナリト解釋セサルヲ得ス本訴原告ハ即チ右漁業法第二十五第一項ニ規定スル爭議ノ裁決ニ對シ訴願ヲ爲サス直チニ行政訴訟ヲ提起シタルモノナレハ適法ノ出訴ナリトス被告ハ行政裁判法第十七條第一項ニ依リ原告カ地方上級行政廳ニ訴願ヲ爲サス直チニ本訴ヲ提起シタルヲ以テ不適法ナリト云フモ同條第一項ハ訴願法其他ノ法令ニ依リ訴願ヲ許サレタル者之ヲ爲サスシテ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サル旨ヲ規定シタルニ過キス本件ハ之ニ反シ前段說明ノ如ク單ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘク訴願ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ行政裁判法第十七條第一項ニ所謂法律勅令ニ特別ノ規程アルモノニ該當スルモノナレハ本訴ノ提起ヲ以テ不適法ナリト云フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ判決スルコト左ノ如シ

被告ノ妨訴抗辯相立タス此ノ裁判ニ關スル訴訟費用ハ被告ノ負擔トス

24/3/38

行政 民法 判例彙報第十四卷行政判例 大尾

民事判決例

刑事判決例

行政判決例

發行所 大賣捌所 判例彙報社

民事判決例

定價金七拾錢但郵稅共

本書ハ法學社會ニ名ノ聞ヘアル法學博士江木衷先生ノ編輯ニ係ル判例彙報明治三十五年度滿一ヶ年ノ大審院民事判決例ヲ合綴シタルモノニシテ最近一ヶ年間ニ於テ苟モ講法者ノ參考タルヘキ有力ナル大審院民事判決例ハ擧テ本書ノ裏ニ收ム

刑事判決例

定價金七拾錢但郵稅共

本書ハ同上江木法學博士ノ編纂ニ係ル判例彙報明治三十五年度滿一ヶ年分ノ大審院刑事判例ヲ合綴シタルモノニシテ最近一ヶ年間ニ於テ苟モ講法者ノ參考タルヘキ有力ナル大審院刑事判決例ハ擧テ本書ノ收ムル所タリ

行政判決例

定價金貳拾五錢郵稅共

本書ハ同上江木法學博士ノ編纂ニ係ル判例彙報明治三十五年度滿一ヶ年分ノ行政判例ヲ合綴シタルモノニシテ最近一ヶ年間ニ於テ參考上有力ナル行政裁判所ノ判決ハ擧テ本書ノ收載スル所タリ

右需用ノ諸士ハ至急申込之有度候也

發行所　東京市神田區一ツ橋通　有斐閣
東京市神田區表神保町　東京堂
東京市京橋區數寄屋町　東京海堂

大賣捌所　判例彙報社

24/3/38

司法
行政

判例彙報第十四卷行政判例

大尾

大改良廣告

本邦唯一國際法雜誌!!　國際法諸專門家協力
高橋博士編纂主幹　大學院專攻學士分擔編纂

國際法雜誌

第二卷第一號
毎月一回發刊

定價一部貳拾錢　郵稅壹錢五厘　六部壹圓拾錢　郵稅九錢　一年分貳圓拾五錢　郵稅十八錢
八年以前創設セラレタル國際法學會ハ今寺尾、有賀、高橋、中村、山田諸博士等ノ專門家其他之ニ關係アル法學大家穗積、富井、梅、戸水、岡田、松波、加藤、筧諸教授等ノ諸學者ト小村山座、安達、石井、倉地、諸君等外交實務家其他海軍實務家幷ニ歐州ニ駐在セラル、帝國外交官等凡ソ百餘人ヲ網羅シ切磋研鑽學問ト實際トノ調和幷ニ眞學理ノ啓發ヲ勉メ一昨年本誌ヲ發刊セルヤ其名歐州ニ傳ハリ彼地諸學者ヨリ原稿ヲ得ルニ至レリ今回同學會ノ決議ニヨリ高橋博士ヲ雜誌編纂主幹トナシ諸博士之ヲ協助シ特ニ斯學ニ堪能ノ譽アル秋山法學士其他在大學院專攻家加福、蜷川、米田、山川、高橋、遠藤、松原諸學士等協同盡力セラルヽコトヽナリ諸學者ノ學說ハ勿論其他新材料ノ如キモ差支ナキ範圍ニ於テ供給セラルベキトナリタレバ本誌ハ國際法理幷ニ國際間ノ新事實ノ報導ニ關シ本邦唯一ノ良雜誌ナリ

發行所　國際法學會　大賣捌所　有斐閣雜誌店

雜報

○自殺の統計

今般其筋にて調査せし日本全國の自殺者の統計を見るに其數は年々增加を來す傾向あり最近の統計は三十四年中のものにて其總數は八千五百八十二人なり之を全國人口四千五百萬に比例せば一萬人に付二人弱の割合となり三十年の總數七千六百五十八人に比すれば九百二十四人を增加せり斯く增加の原因は如何なるや深く研究すべきものなるが自殺者に就て取調をなし明白となりし原因を區別して掲ぐれば左の如し

原因	男	女
精神錯亂して	二千五百七十五人	千七百二十八人
病苦により	七百六十八人	五百十二人
活計の困難又は薄命を歎き	七百三人	二百四十九人
癲癇又は癈疾により	二百五人	二百九十四人
前非を悔ひ又は慚愧により	二百三十一人	六十六人
親族不和により	八十七人	百六十四人
罪の發覺を恐れ又は刑の免れ難き爲	六十五人	十六人
將來の事を苦慮して	四十人	三十六人
商業の爲め損失し又は負債償却に苦みて	九十四人	七人
親又は夫等の懲戒又は疑貶により	七人	十五人
離緣を悲みて	二人	十二人
夫又は子等の不行狀を歎き	七人	十人
私通姙娠を憂ひ	〇	二十三人
結婚を忌みて	一人	六人
身體の不具なるを歎きて	四人	五人
憂鬱に因り	二十二人	二十四人
親又は妻子等の死去を歎きて	四人	四人
其他	百十二人	四十一人
不詳	二百九十七人	百四十七人

大改良廣告

本邦唯一國際法雜誌!! 國際法諸專門家協力
高橋博士編纂主幹 大學院專攻學士分擔編纂

國際法雜誌

定價二部貳拾錢郵税壹錢 六部壹圓拾錢郵税九錢 一年分貳圓拾五錢郵税十八錢
第二卷第一號 毎月二回發刊

八年以前創設セラレタル國際法學會ハ今寺尾、有賀、高橋、中村、山田、諸博士等ノ專門家其他之ニ關係アル法學大家ノ穂積、富井、梅、戸水、岡田、松波、加藤覺諸教授等ノ諸學者ト小村山座、安達、石井、倉地、諸君等外交實務家其他海軍實務家ト共ニ歐州ニ駐在セラルヽ帝國外交官等凡ソ百餘人ヲ網羅シ切磋研鑽學問ト實際トノ調和并ニ眞學理ノ啓發ヲ勉メ一昨年本誌ヲ發刊セルヤ其名歐州ニ傳ハリ彼地諸學者ヨリ原稿ヲ得ルニ至レリ今回同學會ノ決議ニヨリ高橋博士ヲ雜誌編纂主幹トナシ諸博士之ヲ協助シ特ニ斯學ニ出處正確ナル文書并ニ在歐米會員ヨリ贈付セラルヽ報告ヲ掲載セラルヽコトヽ相成候間諸博士ノ本邦唯一ノ雜誌ナル國際法學會ノ雜誌ハ新進實務家ノ期待ヲ滿足シ其他新刊ノ如キ之ヲ發行セルヤ直チニ供給セラルヽ筈ニ付ナリ

國際法學會 大賣捌所 有斐閣雜誌店

雜報

○自殺の統計

今般其筋にて調査せし日本全國の自殺者の統計を見るに其數は年々增加を來す傾向あり最近の統計は三十四年中のものにて其總數は八千五百八十二人なり之を全國人口四千五百萬に比例せば一萬人に付二人弱の割合となり三十年の總數七千六百五十八人に比すれば九百二十四人を增加せり斯く增加の原因は如何なるや深く研究すべきものなるが自殺者に就て取調をなし明白となりし原因を區別して掲ぐれば左の如し

原因	男	女
精神錯亂して	二千五百七十五人	千七百二十八人
病苦により	七百六十八人	五百十二人
極貧の困難又は將來を歎き	七百三人	二百四十九人
編情又は婚姻により	二百五人	二百九十四人
前非を悔ひ又は慚愧により	二百三十一人	六十六人
親族不和により	八十七人	百六十四人
罪の發覺を恐れ又は刑の免れ難き爲	六十五人	十六人
將來の事を苦慮して	四十人	三十六人
商業の爲め損失し又は負債償却に苦みて	九十四人	七人
親又は夫等の惡癖又は貧困により	七人	十五人
離縁を悲みて	二人	十二人
夫又は子等の不行狀を歎き	七人	十人
私通姦淫を愛ひ	〇	二十三人
結婚を忌みて	一人	六人
身體の不具なるを歎きて	四人	五人
憂鬱に因り	二十二人	二十四人
親又は妻子等の死去を歎きて	四人	四人
其他	百十二人	四十一人
不詳	二百九十七人	百四十七人

○新刊寄贈書目

△明治法學　毎號　明治法學會
△日本辯護士協會錄事　同　日本辯護士協會
△法學新報　同　法學新報社
△法曹記事　同　法曹會
△早稻田學報　同　早稻田學會
△國家學會雜誌　同　國家學會
△法學協會雜誌　同　法學協會
△教育公報　同　帝國教育會
△國際法雜誌　同　國際法學會
△法政新誌　同　法政學會
△警察時論　毎號　警察學會
△行政法協會雜誌　同　行政法協會
△圖書日報　同　東京書籍商組合事務所
△警察科講義錄　同　警察監獄學會
△白鳳新聞　同　白鳳新聞社
△市町村雜誌　同　市町村雜誌社
△自治機關　同　自治館

廣告

東京市神田區淡路町二丁目七番地
電話番號本局八百七十三番　江木法律事務所
江木
倉橋　法律事務所
靜岡縣靜岡市紺屋町百廿一番地

辯護士法學博士　江木衷
辯護士　事務所　卜部喜太郎
辯護士　倉橋政直
東京市麴町區上六番町二番地

事務所執務時間
毎日　自午前九時　至午後五時　日曜。大祭日。休業

廣告

東京市神田區淡路町二丁目七番地
江木法律事務所
電話番號本局八百七十三番

靜岡縣靜岡市紺屋町百廿一番地
江木
倉橋
法律事務所

辯護士法學博士　江木衷
辯護士　卜部喜太郎
事務所　東京市麴町區上六番町二番地
辯護士　倉橋政直

事務所執務時間
每日 自午前九時 至午後五時 日曜。大祭日。休業

一本誌ハ毎月一回發刊ス
一本誌定價ハ一冊金十五錢六冊前金八十四錢十二冊前金一圓六十二錢外ニ郵税一冊ニ付一錢但シ郵券代用ハ一割増
一本誌ハ前金ニアラサレハ一切送致セス
一本誌廣告料ハ一行五號活字廿二字詰金十錢半頁金二圓五十錢一頁金五圓
一本誌代金ハ總テ東京飯田町郵便電信支局宛ニテ御拂込被下度候
一代金拂込ノ際代金ノ領收證ヲ求メラル、諸氏ハ送金ノ際端書一葉若クハ郵便切手一錢五厘ヲ送附セラルベシ
一本誌前金盡キタルキハ發送ノ際封皮ノ氏名ヲ朱書可致候間次號發兌迄ニ御送金可被下候
一本誌代價拂込ハ東京麹町區飯田町五丁目卅八番地判例彙報社宛御差出被下度候

判例彙報大賣捌所
東京市神田區一ッ橋通町七番地 有斐閣雜誌店
東京市京橋區元數寄屋町三丁目八番地 東海堂 川合晋
東京市神田區表神保町 東京堂

明治三十六年十二月十日印刷
明治三十六年十二月十三日發行
東京市神田區淡路町二丁目七番地
編輯人 江木衷
東京市麹町區飯田町五丁目三十八番地
發行人 工藤角三郎
東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
印刷人 島連太郎
東京市神田區美土代町貳丁目壹番地
印刷所 三秀舍
東京市麹町區飯田町五丁目三十八番地
發行所 判例彙報社

（東京市神田區美土代町二丁目一番地三秀舍印行）

21
22
107

雑21
107

禁電子式複写

CZ-2114-2

判例彙報 第1—9，11—23巻

判例彙報社

M28—T1